

小矢部市まちづくり研究会 (第4期生)研究成果報告書

活動期間:平成 24~25 年度



平成 26 年 3 月

目 次

はじめに	1
第1章 まちづくり研究会（第4期生）の活動の概要	
1. まちづくり研究会の設立経緯	2
2. 研究活動経過	2
3. まちづくり研究会（第4期生）の体制	7
第2章 研究会の活動報告及び提案	
・先進地視察研修報告（平成25年度実施分）	9
・（仮称）三井アウトレットパーク北陸小矢部 来客者の市内周遊大作戦	27
・フォトコンテストの開催による観光促進について	53
・健康寿命の延命化を検証する！	61
・七福神像を活かしたまちづくりについて	75
各委員の活動を終えての感想	90

参考資料

資料1 先進地視察研修報告（平成24年度実施分）	93
資料2 日置市まちづくり研究会研修 協議内容	110

はじめに

近年、経済等のグローバル化に伴う影響は国家レベルにとどまらず、地方都市にまで及び、人口減少と相まって都市間競争も激しさを増しています。ますます、地域の主体性や力量が問われてくる中、当市は、将来の都市像を「住んでみたいと思える魅力のあるまち、住み続けたいと思える安心感のあるまち、住んで良かったと思える充実感のあるまち」と掲げ、旧来の行政主導型にとどまらない方法で、これらの目標に向けた政策を進めております。

この政策の一環として、市民と行政が協力し、より良いまちづくりについて議論や研究を進めるため、平成 17 年度に「小矢部市まちづくり研究会」を設置いたしました。

活動は、第 1 期生（平成 17～18 年度）から始まり、第 2 期生（平成 20～21 年度）、第 3 期生（平成 22～23 年度）を経て、今回の第 4 期生（平成 24～25 年度）に至ります。第 4 期生からは、従来 of 委員 16 人体制を変更し、公募等による市民 4 人、市職員 4 人の計 8 人で構成することとし、平成 24 年 9 月に活動を始めています。始動が多少遅くなったというハンディはありましたが、少人数のまとまりの良さを発揮して、翌年 3 月には「介護支援活動に係る補助金制度について」ほか 2 つのテーマについて市長に中間報告を行い、2 年目（平成 25 年度）も新たに「アウトレットモール」についての研究も加えて、研究に取り組んで参りました。

この報告書は、約 1 年半の活動期間に出された様々な意見やアイデアを取りまとめたものです。今後、この提案を小矢部市のまちづくりに活かしていただき、「魅力・安心・充実」の都市像の実現の一助となることを願います。

第1章 まちづくり研究会（第4期生）の活動の概要

1. まちづくり研究会の設立経緯

小矢部市では、近年の市町村を取り巻く社会情勢と同様に、人口減少・少子高齢化や、中心市街地の衰退など多くの課題を抱えています。

ただ、北陸新幹線の開通やアウトレットモールの開業は、今後のまちづくりにおいて大きな役割を果たすとともに市内の経済活動等を活性化させることが予想され、これらを活かした、新しいまちづくりのあり方について検討が求められています。

こうした中、平成17年度に市の将来に向けた新しいまちづくりの方策について、次世代を担う市民と市職員とが協働して研究する場として、小矢部市まちづくり研究会が設立されました。

2. 研究活動経過

まちづくり研究会（第4期生）の活動の概要については、下表のとおりです。

平成24年度(1年目)

会議等の名称	日時	場所	内容
第1回会議	9/10(月) 10:00~43	市役所 2階 特別会議室	・委嘱書の交付 ・委員自己紹介、事務局員紹介 ・研究会の趣旨説明 ・監事選出 ・会の運営(会議開催曜日・時間)及び今度の活動予定について ・研究テーマについて
第2回会議 第3期生との連絡会	10/9(火) 19:00~21:02	おやべ市民活動 サポートセンター 2階 多目的ホール	・委員自己紹介 ・第4期生からの意見発表(関心のあるテーマ) ・研究テーマについて(過去のテーマの確認) ・先進地視察研修について(場所の列挙)
第3回会議	11/13(火) 19:00~20:18	おやべ市民活動 サポートセンター 2階 会議室1・2	・先進地視察研修先(能登)の質問内容の確認 ・研究テーマの数について

平成 24 年度(1年目)

会議等の名称	日時	場所	内容
先進地視察 研修	11/18(日) 8:20 ~19日(月) 16:38	石川県七尾市、 輪島市、珠洲市、 穴水町、能登町	【1日目】 西岸駅、のと鉄道(株)、春蘭の里、 金剛崎、白米千枚田 【2日目】 珠洲市役所、七尾市役所
第4回会議	12/11(火) 19:03~21:04	おやべ市民活動 サポートセンター 2階 会議室1・2	・先進地視察研修の結果とりまとめ について ・研究テーマ・自主活動の検討 ・中間報告会の日程等の確認
第5回会議	1/15(火) 19:13~21:55	おやべ市民活動 サポートセンター 2階 会議室1・2	・「私が研究したいテーマについて」 の発表 ・研究テーマの絞り込み、担当する 委員の決定 ・電子メールを利用した情報共有 について
第6回会議	2/12(火) 19:00~20:48	おやべ市民活動 サポートセンター 2階 多目的ホー ル	・「私が研究したいテーマについて」 の発表 ・研究テーマの絞り込み、担当する 委員の決定 ・電子メールを利用した情報共有に ついて
第7回会議	2/28(木) 19:00~20:53	おやべ市民活動 サポートセンター 2階 多目的ホー ル	・中間報告会のテーマ別発表内容 について ・自主活動の内容(七福神のキャラ クターデザイン)について
第8回会議	3/12(火) 19:00~20:55	おやべ市民活動 サポートセンター 2階 多目的ホー ル	・中間報告会の発表リハーサル
中間報告会	3/19(火) 18:26~19:35	市役所 2階 特別会議室	・先進地視察研修報告 ・テーマごと(介護・七福神・写真コ ンテスト)の研究報告 ・市長からの講評

平成 25 年度(2年目)

会議等の名称	日時	場 所	内 容
第1回会議	4/9(火) 19:12~30	おかむら	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度の活動を振り返って ・研究テーマについて ・先進地視察研修について ・自主活動について
第2回会議	5/14(火) 19:25~21:01	おやべ市民活動 サポートセンター 2階 会議室1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマについて ・先進地視察研修について ・自主活動について ・第3期生との連絡会について
第3回会議 第3期生との 連絡会	6/11(火) 19:16~20:46	おやべ市民活動 サポートセンター 2階 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度の活動実績及び平成 25 年度の活動予定について ・研究テーマについて ・先進地視察研修及び自主活動について
第4回会議	7/9(火) 19:06~21:56	おやべ市民活動 サポートセンター 2階 会議室1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地視察研修について(アンケート結果による) ・自主活動について
第5回会議	8/6(火) 19:06~20:50	おやべ市民活動 サポートセンター 2階 会議室1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地視察研修について ・自主活動について
先進地視察 研修	8/25(日) 8:35 ~26日(月) 18:51	埼玉県入間市、 栃木県佐野市、 足利市	<p>【1日目】 三井アウトレットパーク入間</p> <p>【2日目】 佐野市役所、佐野プレミアム・アウトレット、足利七福神(通6丁目巖島神社、常念寺、福巖寺)</p>
第6回会議	9/10(火) 19:13~21:33	おやべ市民活動 サポートセンター 2階 会議室1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地視察研修結果について ・小矢部市新任職員研修Ⅱにおける発表について ・自主活動について

平成 25 年度（2 年目）

会議等の名称	日時	場所	内 容
平成 25 年度 小矢部市新任 職員研修Ⅱ 「まちづくり研究 会視察報告」	9/19(木) 10:40~11:59	市役所 5階 501 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり研究会の概要について ・中間報告会について ・先進地視察研修について ・班別演習・発表・質疑応答
第 7 回会議	10/8(火) 19:14~20:45	おやべ市民活動 サポートセンター 2階 会議室1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・小矢部市新任職員研修Ⅱにおける 発表について ・日置市まちづくり研究会の視察対応 について ・自主活動について
第 8 回会議	10/28(月) 19:28~20:54	おやべ市民活動 サポートセンター 2階 会議室1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・日置市まちづくり研究会の視察対応 について ・自主活動について
鹿児島県日置市 職員まちづくり 研究会研修の 対応	11/6(水) 14:21~16:13	市役所 3階 第2委員会室	<ul style="list-style-type: none"> ・両研究会について、経緯等を説明 ・質疑応答
第 9 回会議	11/11(月) 19:13~21:12	おやべ市民活動 サポートセンター 2階 会議室1・2	<ul style="list-style-type: none"> ・日置市まちづくり研究会の研修につ いて ・自主活動(七福神メルギュー写真 パネル製作)について ・研究テーマについて
第 10 回会議、 第 1 期生村上 座長講演	12/2(月) 19:17~21:17	市役所 5階 502 会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・自主活動(七福神メルギュー写真 パネル製作)について ・まちづくり研究会の経緯等について ・研究テーマについて
第 11 回会議	12/13(金) 18:30~20:25	(有)村上広告社	<ul style="list-style-type: none"> ・「おやべの七福牛」顔出しパネルの 製作
「おやべの七福 牛」顔出しパネ ル除幕式	12/25(水) 9:28~45	JR石動駅構内	<p>《出席者》 桜井市長、小川駅長、委員7人、 事務局</p>

平成 25 年度（2 年目）

会議等の名称	日時	場所	内容
第 12 回会議	1/16(木) 19:13~21:12	おやべ市民活動 サポートセンター 2階 会議室1・2	・研究成果報告会について(担当者の確認)
第 13 回会議	2/7(金) 19:30~21:40	市役所 1階 市民協働課事務室	・研究成果報告書について(ページ構成等)
第 14 回会議	2/20(木) 19:09~20:23	市役所 5階 502 会議室	・研究成果報告書について(テーマの名称変更、各テーマのページ数の確認等)
第 15 回会議	3/6(木) 19:47~21:39	市役所 5階 502 会議室	・研究成果報告書について(発表者の決定、表記方法の統一等)
第 16 回会議	3/11(火) 19:00~23:22	市役所 5階 502 会議室	・研究成果報告書・発表用パワーポイントデータの確認・修正
第 17 回会議	3/17(月) 19:00~23:54	市役所 4階 402 会議室	・研究成果報告書・発表用パワーポイントデータの確認・修正 ・研究成果報告会リハーサル
研究成果報告会	3/20(木) 18:30~	ばんば	

※サポートセンター・・・おやべ市民活動サポートセンター



第 17 回会議の様子

3. まちづくり研究会（第4期生）の体制

区分		役職	性別	氏名	推薦団体・所属部署・職名
1 2 3	市民委員 団体推薦	座長	男性	みやた ともゆき 宮田 智行	(公社)小矢部青年会議所
		副座長	女性	かがみ はるみ 鏡 晴美	小矢部市商工連合会 会員
			男性	たかはし たけひろ 高橋 孟寛	いなば農業協同組合青年部 部員
4 5 6 7	市職員委員 職員公募	書記	女性	よしだ えりこ 吉田 恵里子	民生部社会福祉課 主事
			男性	やだけ まさひで 矢竹 正英	総務部税務課 主任
			男性	ふくなが よしずみ 福永 圭純	産業建設部農林課 主事
			男性	ふじさわ ゆういちろう 藤澤 雄一郎	民生部健康福祉課 主事

8 9	OB会員 市民委員	監事	男性	のて みつぐ 野手 貢	第3期生座長
	市職員委員	監事	男性	のと ひろし 能登 啓之	第3期生、 教育委員会スポーツ課 主任

事務局

職名	氏名
民生部長	はやしかずひろ 林 和宏
市民協働課長	いじま けいじ 居島 啓二
市民協働課 課長補佐	よこがわ かずひろ 横川 和弘
市民協働課 主査	ながた かずゆき 長太 一進

第 2 章 研究会の活動報告及び提案

先進地視察研修報告（平成 25 年度実施分）

第 1 節 先進地視察研修の概要

1. 日 時
2. 視察先
 - (1) 三井アウトレットパーク入間
 - (2) 佐野市役所（東仮庁舎、産業文化部商工課商業振興係）
 - (3) 佐野プレミアム・アウトレット
 - (4) 足利七福神
3. 行 程
4. 参加者

第 2 節 先進地視察研修の感想

1. 三井アウトレットパーク入間
2. 佐野市役所（産業文化部商工課商業振興係）
3. 佐野プレミアム・アウトレット
4. 足利七福神（通 6 丁目巖島神社〔長尾弁天〕、常念寺〔毘沙門天〕、福巖寺〔布袋尊〕）
5. その他（全体を振り返って等）

第 1 節 先進地視察研修の概要

1. 日 時

平成 25 年 8 月 25 日（日） 8 時 35 分から 26 日（月） 18 時 51 分まで

2. 視察先

(1) 三井アウトレットパーク入間

所在地：埼玉県入間市宮寺 3169-1

内 容：説明を受けた後、意見交換、館内視察

U R L：http://www.31op.com/iruma/

(2) 佐野市役所（東仮庁舎、産業文化部商工課商業振興係）

所在地：栃木県佐野市浅沼町 798

内 容：説明を受けた後、意見交換

U R L：http://www.city.sano.lg.jp/kakuka/syoukou.html

(3) 佐野プレミアム・アウトレット

所在地：栃木県佐野市越名町 2058

内 容：周辺地域の商業集積状況視察、館内視察

U R L：http://www.premiumoutlets.co.jp/sano/

(4) 足利七福神

① 通 6 丁目巖島神社（長尾弁天）

所在地：栃木県足利市通六丁目 3177

備 考：長尾城主（三代目景長）が西宮町長林寺に祀ったもの。

明治元年（1868 年）神仏分離令により、長林寺から通り
6 丁目に遷座、巖島神社となった。

U R L：http://www.ashikaga-kankou.jp/watch/nagaobenten

② 常念寺（毘沙門天）

所在地：栃木県足利市通七丁目 3094

備 考：平安末期（1143 年）創建。一遍上人の法孫が、遊行中
荒廃した寺の再建に尽くされた。仏舎利泰安の寺。

U R L：http://www.ashikaga-kankou.jp/watch/jounenji

③ 福巖寺（布袋尊）

所在地：栃木県足利市緑町一丁目 3270

備考：寿永元年（1182年）に足利又太郎忠綱を開基とし、理真上人を勧請開山として開創された。母の菩提と父の供養のために創建したといわれている。

URL：<http://www.ashikaga-kankou.jp/watch/fukugonji>

3. 行程

※P12のとおり

庁用車（ランディ、8人乗り）にて移動

4. 参加者

委員 宮田座長、鏡副座長、吉田書記、矢竹、福永、藤澤

事務局員 長太

計7人



小矢部市まちづくり研究会(第4期生)先進地視察研修 行程表

平成25年8月25日(日)～26日(月)

《第1日目》

時刻	視 察 先 等	視 察 内 容 等	区間 距離 (km)	所要 時間
8:35	小矢部市役所 発	8:30集合		
		能越自動車道(小矢部東IC)→[小矢部砺波JCT]→北陸自動車道→[上越JCT]→上信越自動車道→ [藤岡JCT]→関越自動車道	385	4:09
12:44	寄居PA(深谷市)	昼食(小説「星の王子さま」がコンセプトのPA)		0:38
13:22				
		関越自動車道→[鶴ヶ島JCT]→圏央道(入間IC)	66	1:12
14:34	◆三井アウトレットパーク入間	14:58～16:13 説明を受けた後、意見交換、館内視察 16:15～16:45 自由散策		2:22
16:56				
		圏央道(入間IC)→[鶴ヶ島JCT]→関越自動車道→[高崎JCT]→北関東自動車道→[岩舟JCT]→ 東北自動車道(佐野藤岡IC)→国道50号	167	2:13
19:09	カンデオホテルズ佐野 着			
		計	618	10:34

《第2日目》

時刻	視 察 先 等	視 察 内 容 等	区間 距離 (km)	所要 時間
8:40	カンデオホテルズ佐野 発			
		国道50号→県道16号線→県道67号線	3	0:09
8:49	◆佐野市役所	9:00～10:00 アウトレットモールと既存商業街との関係、 交通渋滞等について説明を受けた後、意見交換		1:41
10:30				
		市道→県道9号線	4	0:11
10:41	◆佐野プレミアム・アウトレット	10:30～11:30 周辺地域の商業施設集積状況視察、館内視察		1:00
11:41				
		国道50号→東北自動車道(佐野藤岡IC)→[岩舟JCT]→北関東自動車道(足利IC)→国道293号	28	1:17
12:58	◆足利七福神	昼食 通6丁目厳島神社(長尾弁天)、常念寺(毘沙門天)、 福厳寺(布袋尊)	2	0:42
13:40				
		北関東自動車道(太田桐生IC)→[高崎JCT]→関越自動車道→[藤岡JCT]→上信越自動車道→ [上越JCT]→北陸自動車道→[小矢部砺波JCT]→能越自動車道(小矢部東IC)	415	5:11
18:10	小矢部市役所 着			
		計	452	10:11

	総	計	1,070	18:35
--	---	---	-------	-------

第2節 先進地視察研修の感想

1. 三井アウトレットパーク入間

宮田座長

(1) 地域特産物販売について

小矢部市では、アウトレットモール内で特産物を売ったり、地元の店舗のテナントを入れようとしたりする流れが起きる可能性があると思うが、現実的には、テナントとして入るのはなかなか難しそうな印象を受けた。ただ、入間のように共用部分において定期的に1か月に数度とかワゴン販売のような感じで、地元特産品を売るとは十分に考えられるので、小矢部では地域の特色を出すためにも検討していかなければならないと思う。



(2) 共存共栄について

三井アウトレット側としては、地元の商店街との相乗効果、共存共栄するためにもできることはしてくれる、協力してくれる体制をとっている。入間でも、地元企業とのタイアップ・ブランドアップキャンペーン・絵葉書・クーポン・着ぐるみ・防災訓練・清掃活動など、多くの実績を残している。小矢部市も、様々な共存していくための相乗効果を上げるための、また、市内へ回遊させるための様々なアイデアや仕組みを考え、三井アウトレット側へ提案していくべきだと感じた。

(3) 交通渋滞について

アウトレットパークのオープン当初とても問題になっていたことも渋滞問題も、5年経って解消されてきていることから考えると、しっかりとした効果的な対応を取るノウハウができてきているように感じた。臨時駐車場・営業時間延長・ホームページ上での道案内・バス会社との連携など、三井では入間以降のアウトレットではしっかりとした対応策をとっていることが分かった。特に、敷地内での周回通路が1kmあり、そこでも交通渋滞を緩和する仕組みなどは、小矢部でも事前の敷地計画段階で考えておかなければならないことである。

また、入間ではアウトレットモールとコストコが隣接しているが、小

矢部でも道の駅とほぼ隣り合わせの位置関係になるので、駐車場問題、交通渋滞の協議は必要不可欠だと思う。

(4) その他

店舗は、全体的にほぼ全天候型になっており、多少の雨でもショッピングを楽しめるつくりになっている。中央の広場は、屋根のある広い吹き抜け空間があり、イベントなどが行えるスペースがあり、当日も子供の喜ぶようなイベントが開催されていた。

鏡副座長

- ・ 2008年のオープンから5年経過している。2階建ての施設。
- ・ 1階は真ん中の通路もあってそれほど感じないが、2階は吹き抜けになっているので通路が狭く感じる。
- ・ 日曜日ということもあり、来店者は多いように思えた。けど、三井側の回答では当日の来店は、いつもより少ないということではあった…。その中でもファミリーの来店が目立つ。広場等でアトラクション（逆バンジーみたいなのは子供だけ？）を行っていたのも、ファミリーでの来店者数増につながっているのではないか。



- ・ 立体駐車場が完備されているが、自動車での来店がほとんどなのに、駐車料金が掛かるのはどうなの？と個人的に思う（立体駐車場じゃない駐車場は、無料だったのかな？もしかして、コストコの駐車場も無料だったらそっちに停めるかも…。）。
- ・ 交通渋滞については、知らないとコストコ渋滞に巻き込まれる。いつもより少ない来店者数でもあれだけの渋滞だったら、常に、土日祝日は交通整理員を置くべきではないか。
- ・ 地元からの販売等の要望は、という質問に対して、小矢部の地元企業のゴールドウインの名前が出て来たのには驚いた。入間には、その店舗はないのは知っていたので…。社名が出てきたことを会社で話すと、『三井側も下調べをしているはずで、名前が出るのは当然だろう、概要も分からないが期待しましょう！』と、ゴールドウイン店舗開発室長談。

吉田書記

三井アウトレットカードの提示で、周辺施設の優遇を受けられるというサービスは、全てのアウトレットで行っているようだ。特典の負担は、各周辺施設が各々で行っているそうだが、提携店舗の認知度アップにつながっているという点で、効果があると感じた。しかし、観光施設との連携部署はあるが、クーポンを観光バスで配布する程度で、ほとんど市内の施設とは連携していないとおっしゃっていたことが印象に残った。プレミアム・アウトレット系列では、カードの提示で周辺施設の優遇を受けられるというサービスを行っているだけでなく、周辺施設を利用するとアウトレット割引券がもらえるという企画を期間限定で多数行っている。そのため、アウトレットのホームページに、割引券を配布している施設を分かりやすく掲載しており、三井よりも周辺施設との連携がなされていると感じた。市が言うには、企画に関与していないのでどれほどの効果があるのかは分からないそうだが、小矢部でも周辺施設を利用するとアウトレット割引券がもらえるという企画を行えば、クレジットカードを持たない主義の人たちも含めて、周知効果が増すのではないかと感じた。

矢竹委員

- ・二階建てで通路は回廊タイプか。
- ・視察した日曜日は、客数は少ない方（普段の土日は1.5倍増）だったらしいが、それでも気を付けて歩かなければいけない程の混み具合だった。
- ・ノウハウ等の蓄積により、現在では渋滞は問題にならないレベルだそう。過去の駐車台数データからどの程度混むかは予想でき、臨時駐車場、誘導員の設置等の対策をとる場合もあるとのこと。
- ・施設を囲むように敷地内道路を整備することにより、ある程度の渋滞は敷地内で吸収できるようにしているのは、よく考えられていると思った。
- ・降雪地帯、片側一車線の国道沿いという条件には、先方の担当者も何とも言えない反応だったが、過去の出店によるノウハウがあるのではといった感じ。
- ・平日は20 km内、土日は30 km以上の圏内からも来場がある。30 km内からの来場者を、約80%想定しているらしい。



福永委員

農産物を直売していたという話が興味深かったです。開店前～直後くらいの時間から、入口付近のワゴンで販売していたとのことですが、嵩張るものなので、帰りに持ち帰ってもらうような販売形式を検討した方がよいのではないかと思います。

藤澤委員

- ・ 広がった。
- ・ 都市近郊ではあるが、来場者数の割合が、自動車：その他＝9：1には驚いた（ターゲットを自家用車での来場者に絞っているのか、思ったほど公共交通が整っていないのか…）。
- ・ 施設内での地元店舗の出店0（ゼロ）というのは、少し寂しい気がした（あまり地元色を強く出したくないのではないか??）。
- ・ 交通渋滞には気を付けているようで、繁忙期の臨時駐車場の設置や監視カメラによる道路状況のリアルタイム把握をしていたり、アウトレットパーク内に道路を敷き施設内にできるだけ車を入れて国道に列ができないようにしたりしていた。が、隣のコストコへの来場者と入り混じって、結局渋滞が発生していた。

2. 佐野市役所（産業文化部商工課商業振興係）

宮田座長

(1) 地域特産物販売について



プレミアム・アウトレットでは、観光物産店の出店が厳しいという話。小矢部は三井アウトレットなので前述のとおり可能だとは思いますが、佐野市役所側の考えは、アウトレットの中で特産物やラーメンなどが全て完結してしまうと、市内を回遊させることができなくなっ

てしまうので、商店街への影響を考えるとあまりよくないという話であった。この点は、小矢部市もよく考慮しシミュレーションして、方向性を導き出さないといけない。

アウトレット内にコミュニケーションセンターという、特産品の紹介をするスペースがあるが、プレミアム側の要請で販売はしていない。

(2) 共存共栄について

アウトレット内で特産品の販売を年2回行なっているらしいが、年2回だけだと形だけのアピールのようにも思える。

駅からのバスが客を市内へ誘導するという仕組みをバス事業として行なっているということだが、この方法は位置関係からすると小矢部でも充分使えるが、JRを利用する人数の割合を考えると、それほどの効果は期待できない。

佐野市が行っている「東京・佐野周遊きっぷ」渡良瀬ストーリーも、小矢部でも考えることはできるが、効果は少ないのではないか。

コミュニケーションセンターは、役割的には十分に地域の特産品を知ってもらい、市街に出向いて買ってもらったり市内を回遊してもらったりという仕組みに関してはよくできているので、学ぶべきところはあるのではないか。

(3) 交通渋滞について

アウトレットオープン後、渋滞が発生してから国道50号線を6車線化したり、アウトレットへの右折レーンを延長したりの対応をしている。国は交通渋滞の実情がなければ動かないので、完璧な準備をして受け入れるのは無理との佐野市側の見解であったが、小矢部のように、確実に渋滞が起きると分かっている片側1車線の道路を2車線にできないのだろうか。グランドオープン当初が最も渋滞するのが分かっているのだから、何とか事前に対応しなければならないと思う。

(4) その他

事前の質問内容の回答や、アウトレット出店に伴う効果・影響と対策をまとめた資料が用意されており、とても分かりやすく説明していただだけ、その内容もしっかりと順を追って細かく、そして的確に要所を押さえた、後から読んでも理解しやすい資料だった。

鏡副座長

- ・ 今後、小矢部市と三井不動産との話し合い等が行われていくと思うが、参考になることが多くあると感じた。が、佐野市とは運営会社が違うのでどこまで受け入れてもらえるか分からない。
- ・ 佐野市の集客として、アウトレット以外の観光にも見どころがたくさんあるが、現状はアウトレットだけが目的で終わっている印象がある。佐野ラーメンやいもフライなどの名物に行き着いてないような気が…。佐野市コミュニケーションセンターの活用が、どこまでできているのか…。
- ・ 佐野市においては「さのまる」人気にあやかって（佐野市も「さのまる」推し？）、今後、アウトレット以外の観光が発展するかもしれないので、小矢部市においても「メルギュー」「メルモモ」のさらなる活躍が必要。
- ・ やっぱり、佐野ラーメン食べたかったな。

吉田書記

アウトレットの名前に「佐野」を入れたことで、知名度がアップしたとおっしゃっていたことが印象に残った。また、アウトレットの出店を追い風にして売上高を伸ばしている、アウトレット付近のガソリンスタンド、飲食店がある一方で、半数の商店が売り上げの減少をしており、対策は取っていても、中心街へ客を引き込むのは難しいとおっしゃっていたことが印象に残る。アウトレットの設置により、観光客は2.5倍、宿泊客は1.25倍に増えたというメリットがある一方で、商店数が4.9%減少しているという現実があり、アウトレットができて8年経つにもかかわらず、今後の課題として「中心市街地や市内にどれだけ入込客を呼び込むか」を挙げておられたことは、対策の重要性を感じた。呼び込み政策として「1. 都市バス路線の開設」「2. アウトレット内に案内所の設置」「3. アウトレットで特産品を紹介し販売するイベントの開催」「4. バスターミナルの設置」「5. 中心市街地に大型バスの駐車場を整備」を挙げておられた。佐野市は旅行会社にツアーなどの企画を持ちかけたことはないとおっしゃっていたが、ツアーを積極的に呼び込んで、市内の観光地に大型バスを引き込めると、観光地にもぎわうのではないだろうか、と感じた。

矢竹委員

- ・渋滞対策として開業後にも近接する国道の車線増、右折レーンの延長、東北自動車道の佐野SAスマートICの開設等といった対応がとられている。問題になっている事実がないと、国、県、NEXCO等と具体的な話ができないということで、対応が後手に回ることは仕方がないことのように思う。
- ・観光案内、特産品の紹介等を行うコミュニケーションセンターを、フードコートの一角に設置している。
- ・運営会社の方針としては、地元色をあまり出していきたいそうである。
- ・アウトレット出店時に対策研究会を設置し、市、運営会社、交通会社に提言・要望を提出している。運営会社は受け入れる余地があるということか。
- ・運営側と市の関係は現在良好な状態にあるそう。必要に応じて連絡を取り合うこともあれば、出店者会議という情報・意見の交換の場があるとのこと。
- ・市全体の人口は減少傾向にあるが、アウトレット周辺？の新都市地区の人口は、増加傾向にあるとのこと。
- ・開業後、一時期アウトレット周辺地区の犯罪発生率が上昇したとのこと。現在は減少傾向にあるとのことだが、そういった対策も必要なのかと思った。
- ・アウトレットの来場客を市内中心部へ誘導することは、現在でも課題の一つとなっているらしい。
- ・開業時には、地元から約1,000人の採用があったとのこと。良い効果である。



福永委員

- ・ アウトレットパークは、あまり土地色を店舗に出したがないという話がありました。方針として仕方ないのかなとも思いますが、せっかくなので何か少しでもその土地の特色を出してもらえると嬉しいなと思います。
- ・ さのまるは、誕生からわずか2年ながら「ゆるキャラグランプリ 2012」で4位を獲得しており、食が絡むと強いなと感じました。メルギューくんにも、何か食べ物を絡めてみては…。

藤澤委員

- ・ 仮設庁舎だった。
- ・ 提供する商品が違っていることもあり、地元の中心市街地の商店とは競合しないとのことであったが、アウトレットに数多く訪れる来場者を中心市街地に呼び込むことは難しいらしい。
- ・ 高速道路の出入口に近いので、高速道路で来て、アウトレットで買い物して、高速道路で帰っていく人が多いらしい。
- ・ 佐野市として、アウトレットはあくまで観光資源の一つととらえているのか、佐野市発行の「佐野ガイドマップ」には、観光名所の一つとしてアウトレットを紹介していた。
- ・ 全くのノーマークであったが、佐野市にも七福神が存在した（佐野ガイドマップ参照）。

3. 佐野プレミアム・アウトレット

宮田座長

- ・ 特産品のスペースが、思っていたよりもかなり凝縮された小スペースだった。本当に販売はしておらず、欲しければ市街地へ行くか道の駅等で買わないといけないという仕組みで、どれほどの人がその物産品欲しさに市街地へ出向くものなのか、とても気になった。しかし、どちらにしても、このような凝縮させたスペースは必要なのではないだろうか。道の駅との連携も考えて、小矢部にとってどのような方法が最適か選択しなければならない。
- ・ 子供が遊ぶようなスペースはあったが、屋外であり、雨の日や猛暑の日は使えないと感じた。
- ・ 三井アウトレットパーク入間と違い、飲食店は混雑を避けるためか、離れた位置に点在していた。



鏡副座長

- ・ 平日のそれも月曜の午前中だったせいか、前日の「入間」と違って、来店者が少なくさみしい感じがした。
- ・ 1階建ての造りになっているため、敷地が広い。それもあってか、余計にさみしい感じがした。
- ・ 佐野市コミュニケーションセン

ターの設置がされているが、もっと目立つ感じで旗とかポスター掲示で、名物アピールをしたほうがよいと思うが…(アピールし過ぎるのもダメなのか。)

吉田書記

アウトレット内の佐野コミュニケーションセンターへ行った。フードコートの玄関側に設置されていて、立ち寄りやすい場所であった。飲食店や近隣観光地などのパンフレットを多種所蔵しているが、地元の商品は展示のみで売っていない。佐野プレミアム・アウトレットは、アメリカ東海岸をイメージして作られており、地域性を出すことに規制をかけていると市役所で伺ったことは、現場を見て頷けた。案内のみを行うことで、アウトレットの中で完結せずに町へ行きたいと思わせるようにしているそうだが、行動が制限されているツアー客などは、アウトレット内で地元の商品を買いたいという要望もあったそうだ。このコミュニケーションセンターは多いときで600人、平日の少ないときでも200人は利用客が来るそうだ。それだけの客が佐野市に興味を持って、センターに立ち寄っているという現実には、アウトレットが、市の知名度アップと興味を持つきっかけづくりに貢献していると言える。小矢部のアウトレット内でも、地元の商品を購入できる場、若しくは、案内所を設置すれば効果が期待できると感じた。

また、プライベートで竜王へ行ったことがあるが、滋賀県のブランドである近江牛を取り扱う飲食店が、客が開店前から列になっていた。その他の地域性のない飲食店は空いているのにもかかわらずである。どこのアウトレットも同じような建物で同じような店が立ち並ぶ。遠方からの客を呼び寄せるには、地域性という個性が求められており、その点について、アウトレット側と話し合う必要があるのではないかと感じた。

矢竹委員

- ・月曜日の午前中ということで混んでいるといった印象は受けず、非常に歩きやすい客数だった。
- ・店舗は全て平屋で、通りの両側に建てられており、解放感を感じる造りになっていた。
- ・屋根があるのは店舗、店舗前の軒部分といった感じだったので、混雑している雨天時にはどういった状態（人の流れ、滞留、店内への雨具の持ち込みなど）になるのかなと思った。



福永委員

佐野コミュニケーションセンターを見て、「これ欲しいな」と思ったものがあったても、その場で買えないのは残念でした。市街地で買ってもらいたいという意図もよく分かるのですが、その場で買えないと購買意欲も減退するので、その場で買えて次に（市街地の方へ）繋がる販売方式があるとよいのですが。



藤澤委員

- ・広かった。
- ・平日（月曜）の朝だったためか、来場者は極めて少なかった。
- ・市、観光協会、商工会議所、農協で設置した「佐野コミュニケーションセンター」という施設には、佐野市の特産品や工芸品、お土産を展示していた。購入したい場合は、厄除け大師向かいの観光物産会館に行かなければいけないらしい。実に不便である（やはり、地元色を出したくないのか??）。

購入したい場合は、厄除け大師向かいの観光物産会館に行かなければいけないらしい。実に不便である（やはり、地元色を出したくないのか??）。

4. 足利七福神（通6丁目巖島神社〔長尾弁天〕、常念寺〔毘沙門天〕、福巖寺〔布袋尊〕）

宮田座長

時間と場所の都合で3か所しか回れなかったが、一貫して共通の説明看板やのぼり旗があり、駐車場もしっかりと整備されていて観光客への対応ができているという印象。小矢部も七福神を本格的にPRして行くのであれば、最低でも同じような整備は必要。

また、説明者がおられた箇所もあり、小矢部ではどこの場所でもそのような対応は難しそう。本来であれば、七福神顔出しパネル製作・設置より前に、整備が必要だと思う。

鏡副座長

パンフレットはしっかりできているが、実際の場所の整備がされていないと思う。

吉田書記

10～20年前に七福神を宣伝しだした。各七福神の傍に看板とスタンプ台が設置されており、ウォークラリーができるようになっている。

しかし、巖島神社は長尾弁天がまつられているだけで像はなく、七福神の目印看板がないと、場所が分からずに通り過ぎてしまいそうになった。常念寺はお堂の中に毘沙門天がおり、春夏秋は隣接する保育園に声をかけないとお堂の中に入れない。管理者にお話を伺うと、平成25年1月は4つのツアーが団体で来客したが、年々団体客が減少傾向にあるそうだ。イベント等を企画し、来客の継続性を持たせることが大切だと実感した。



矢竹委員

- ・各社寺には、足利七福神ののぼり、由来等の案内板が設置されていたが、「力を入れてます」というより「ご自由にどうぞ」といった感じか。
- ・足利市のホームページは、七福神めぐりを兼ねてウォーキングをしてみてもといったニュアンスで紹介している。



福永委員

あまり、七福神を前面に押し出して何かしようという意識が感じられず、とりあえずあるものを紹介しておこう、くらいのもののように感じました。落ち着いていて嫌味が無くて、散歩コースにはいいかなと思いましたが、あえて七福神を巡るという意図で人を

呼び込めるかとなると、そこまでの訴求力は無いと感じました。

藤澤委員

- ・知らない人は、絶対に気付かないと思う。
- ・各神付近に足利七福神の場所を示した案内板（共通）が設置してあり、七福神めぐりに来た人には親切であると思う。
- ・なかなか行きにくい場所にあるものもあり、道に迷う人もいるのでは？
- ・目的は不明であるが、しつこいアピールもせずに、ひっそりと置いてあるのが良い。

5. その他（全体を振り返って等）

宮田座長

やはり一番の問題は共存共栄、いかに相乗効果を得ることが、小矢部のアウトレット成功の鍵だと感じた。そのためには、交通問題も無視できない。ここが要のように思う。

今回、入間でアウトレット側、佐野で市役所側の両方の立場からの話が聞けたが、本来であれば同じアウトレットでの両方の話が聞けたほうが、より正確に実態を把握できたのではないかと思った。しかし、いずれにしても入間でも佐野でもアウトレット側と市側、そして地域が全体として協力して、このアウトレットを存続させていこうという強い気持ちを感じられた。

小矢部でもあと2年間、十分に準備できる期間はあるのでできる限りのことはして、しっかりと全てが共存できるように対策を練っていかなければならないと感じた。

鏡副座長

長距離の移動で、市役所の皆様運転お疲れさまでした。おかげさまで車酔いすることも、私の運転の出番もなく、無事に帰って来れてよかった。

吉田書記

今回の視察は遠かったため、視察時間があまりとれなかったことが残念だった。しかし、系列の違うアウトレットを2か所見られたことは、比較しやすく良い勉強となった。アウトレット側には、イメージや運営方針がある。いかにしてアウトレットに地域性を出していくかに交渉の必要性を感じた。また、アウトレットと周辺施設、中心街との連携をどのようにしていくかも、定期的な話し合いの場が必要である。

今回の視察でアウトレット側に提言したいことは、「1. アウトレットの名前に（小矢部）を付けること」「2. 周辺施設を利用するとアウトレット割引券がもらえるという企画を行い、相互で連携し合うこと」「3. アウトレットの中に、地元の商品を購入できる場や案内所を設置すること」「4. アウトレットの中に、小矢部名産の飲食店を設置すること」「5. 市、商店街、周辺施設との話し合いの場を定期的に持つこと」である。また、旅行会社に売り込んでツアーを積極的に呼び込み、市内の観光地に大型バスを引き込めるよう整備できたらよいと感じた。

七福神についても、整備次第でツアー客を引き込める要素があると実感できた。アウトレットと七福神という資源をうまく活用して、周辺施設や中心街の活性化につなげていけたらと思う。

矢竹委員

- ・今回視察した2施設は、系列店内でも売上は高い方に入るとのことで、当然、業績が良ければ好循環なのかなと思った。
 - ・今回の店舗同様、小矢部市の場合も車による来場が多いと思われる。渋滞等への対策はやはり重要か。
- と思ったら、県市議会議長会の臨時総会で北信越市議会議長会への提出議案として小矢部市から「一般国道8号の桜町西～芹川東間の4車線化整備促進について」が出された。臨時総会后、石井知事との懇談会が行われ、アウトレットモール付近での国道8号の4車線化に国が積極的であるとして、開業までに実現するよう、県としても働きかける。とされたそうである。（富山県市町村新聞第2541号）

から一部抜粋)

- ・開業により交流人口、観光客が増えたとしても、宿泊施設が弱ければ通過地点となってしまうか。
- ・駐車場の一角に山を作るような除雪は、逆に雪が解けにくくなるし、敷地面積が大きければ当然排雪量も大きくなる。降雪地帯ならではの対応が必要か。

福永委員

2か所のアウトレットを見て感じたのは、アウトレットから市街地へ人を呼び込むのが難しそうだということでした。ショッピング・レジャー・食と、一つの施設で完結してしまうため、その後どこかへ寄ろうという気にならないのかもしれませんが。入間で伺ったアウトレットのカード提示による地元商店でのサービスは面白いと思いましたが、サービス分は当然地元商店負担とのことで、あまりこのようなサービスを打ち出し過ぎても地元商店の負担が大きくなってしまうのかもしれませんが。

藤澤委員

- ・アウトレットには、北陸地方には未出店の店舗も多く、見たことのないものを見られたり食べたことのないものを食べることができる。楽しみである。
- ・アウトレットに行くときは、時間を作ってじっくり見学したり買い物の方がいいことが分かった。



(仮称) 三井アウトレットパーク北陸小矢部 来客者の市内周遊大作戦

はじめに

第1章 現状認識と他地域の実例

1. 小矢部市の観光客数
2. 小矢部市に起こる変化
3. 他地域の実例
 - (1) 失敗例
 - (2) 成功例

第2章 小矢部市の作戦

1. 『MOP北陸小矢部』客引き付け作戦 ※MOP=三井アウトレットパーク
 - (1) (仮称) 三井アウトレットパーク北陸小矢部への期待
 - (2) まずはPRから
 - (3) 道の駅メルヘンおやべ
 - (4) 道の駅との連携
 - (5) 稲葉山から始めてみる
2. 『MOP北陸小矢部』客市内周遊大作戦
 - (1) 市内施設・店舗割引券等配布作戦
 - (2) モデルコース作戦

第3章 小矢部市が準備できること

1. 視察から見えてきたこと
2. 市民ができること
3. 行政ができること

まとめ

はじめに

バブル崩壊以降、日本は経済不況に苦しんできた。さらに、2008年の世界同時不況以降、人々の消費行動における買い渋り傾向がより高まり、経済が低迷し続ける要因となった。しかし、そのような状況であっても成長している商業形態がある。それが、「アウトレットモール」である。

アウトレットモールは、地方に好影響を与えるとされている。その理由は、大型商業施設の立地による安定的な税収が期待できることだけではなく、その高い集客力に最大の理由がある。アウトレットモールが取り扱う商品は基本的に衣料品であり、提供する商品のジャンルは非常に限られている。そのため、遠方から来た人々が、アウトレットモールの外に出て周辺地域で飲食や観光を楽しむことで、地域の消費が盛んになっていることが考えられる。さらに、レジャー的な要素も併せ持つため、遠方から来た人々は消費に関して大胆になる傾向がある。

このように、アウトレットモールが直接与える経済効果だけでなく、高い集客力によって人々が集まることによる波及効果で、地域が発展していくとも考えられる。また、観光地としての賑わいにより、まちの魅力の再発見にも寄与している可能性も高いと考えられる。

そのアウトレットモールが、ついに小矢部市で開業することが決まった。国内各地域で成長しているこの波に乗るために、市と市民はどのような準備をしておくべきだろうか。

この研究では、小矢部にこの先数年で起こる変化に対応すべく、市の発展のため、アウトレットモールへの来店客をそのまま帰路に就かせずに、市内周遊へと導き、小矢部市の魅力を感じてもらうための作戦を提案する。



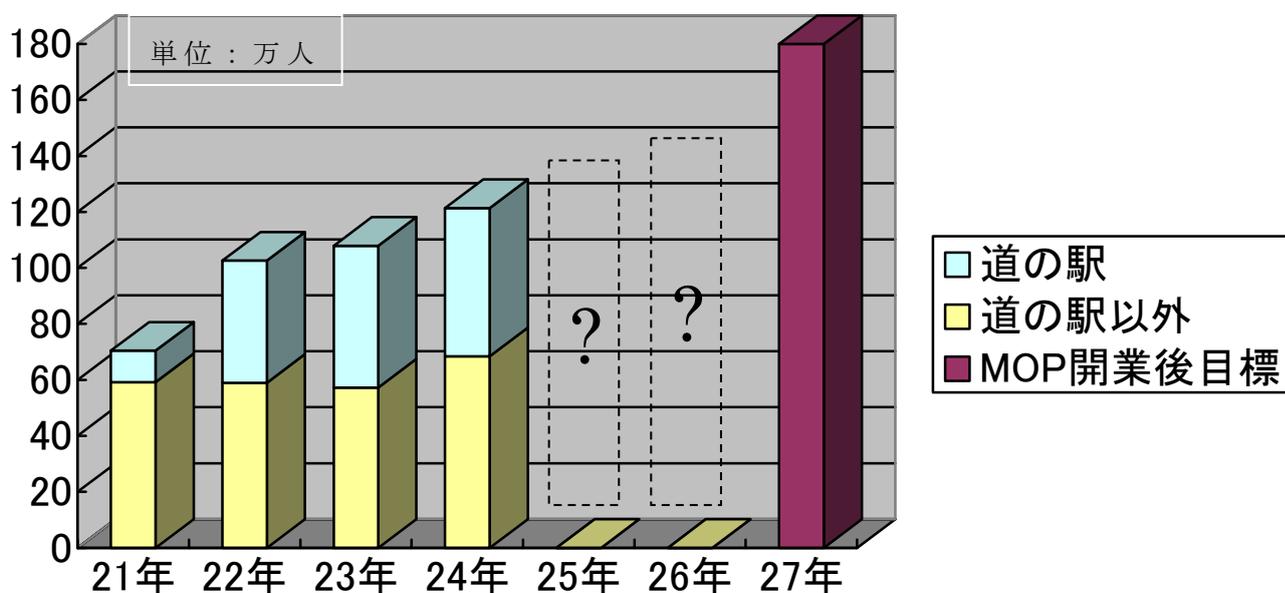
第1章 現状認識と他地域の実例

1. 小矢部市の観光客数

まずは小矢部市の現状を再確認してみよう。

《小矢部市 年間観光客数》

平成25年1～12月	(集計中、増加傾向)	人
平成24年1～12月	1,213,690人	(道の駅 529,732人)
平成23年1～12月	1,079,156人	(道の駅 506,284人)
平成22年1～12月	1,025,358人	(道の駅 436,482人)
平成21年1～12月	704,289人	(道の駅 112,247人 営業2か月)



- ・観光入込客数の4割以上が、道の駅メルヘンおやべへの入込客数となっている。
- ・道の駅の入込客数の増加に伴い、市の年間観光客数も増加している。
- ・道の駅以外の観光地だけでも、増加傾向にある。

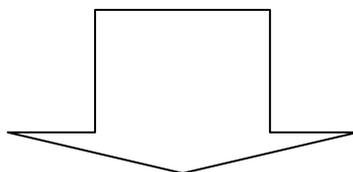
主要幹線道路上に大型施設ができるということは、観光客数、交流人口の想像以上の大幅な増加をもたらす。

2. 小矢部市に起こる変化

《三井アウトレットパーク北陸小矢部 単独での年間予想観光客数》

300万人

うち1%である3万人を、市内流入観光客として見込んでいる。



観光客数増大

交流人口拡大

市内周遊人数増加

観光地、飲食店、商店街など、連携して観光客を受け入れる体制や環境を整えることにより、今後さらに活力のあるまちになり、もっと魅力のあるまちになりえる。

それは、あと残り1年余りの準備期間にかかっている！

3. 他地域の実例

(1) 失敗例

アウトレットモールは国内各地で広がりを見せるが、その一方では撤退を余儀なくされるケースもある。衰退の原因は、何だったのだろうか。実例から考えてみよう。

アウトレットモール・リズム

株式会社スター・プロパティーズが開発・運営会社となって、1993年1月に、日本初のアウトレットモールとして華々しくオープンした。マスメディアから大きく取り上げられたため、オープン当初は休日ともなれば周辺の道路が渋滞するほどの盛況ぶりであった。しかし、以下の理由により2011年6月30日をもって、タワー館以外は改装のため閉店した。

《低迷・閉鎖の要因》

2000年頃から、各地に大型アウトレットモールが次々とオープンすると客足が減り始め、有力テナントが撤退。そのため、さらに客足を減らすという状況に陥った。

アウトレットコンサート長柄

2004年3月18日に、長柄ダムの近隣にオープンした。当初は、TBS『王様のブランチ』の当時の人気コーナー「女王様のお買い物」で紹介されるなど、注目度が高かった。地元タウン誌の千葉ウォーカーでも頻繁に特集が組まれた。しかし、以下の様々な理由により売上げが低迷し、2009年3月31日に「ラジコン天国」の閉店をもって、アウトレットは閉鎖された。



《低迷・閉鎖の要因》

- ・他のアウトレットと異なり、いわゆる高級ブランド店や有名スポーツメーカー直営店舗が出店していない。
- ・最寄り駅・I C（インターチェンジ）から遠く、立地上不利だった。
- ・開業当初はある程度の飲食店が揃っていたが、次第に店舗数が減ってしまった。
- ・後に、ドッグラン始めとしたペット関連施設やラジコン専門店の誘致等のでこ入れが行われたが、うまくいかず、結果的に集客の回復には至らなかった。

アウトレット低迷の主な要因 まとめ

- ・周囲に、ライバルの大型店舗が開業する。
- ・高級ブランド店、スポーツ店が直営していない。
- ・駅・I Cから遠い。

(2) 成功例

次に、現状で来客数上昇中の成功例を見てみよう。成功のポイントはどこにあるのだろうか。

佐野プレミアムアウトレット

栃木県佐野市は、名物の佐野ラーメンと佐野厄除け大師がある程度で、他にこれといった観光資源も無く、年間観光客数は200万人程度であった。しかし、2003年に佐野プレミアムアウトレットがオープンすると町は大きく変わった。「コア圏内」（片道90分の地域）の人口が、プレミアムアウトレットの中では最も多い。韓国人旅行客に人気のある、羽田空港—東京—日光—那須温泉郷—福島空港という国際観光ルート上に位置し、かつ東北自動車道沿いであるため東北からの来客も多く、コア圏外からの集客力が強い。

《佐野市の変化》

- ・観光客数が260万人から800万人に増
- ・佐野藤岡インター利用台数151万台増
- ・周辺の店も売上げ増
- ・地価上昇（1㎡当たり15,000円上昇）
- ・税込（固定資産税など）6億円増

三井アウトレットパーク入間

2008年4月に開業し、I Cから500mの距離に立地している。敷地面積86,000m²と店舗面積32,000m²は、国内最大級のアウトレットモールである。国内外の有名ブランド181店、レストラン6店、フードコート11店とファミリーマートなどその他店舗が6店の計204店が入居しており、このうち44店が日本初出店、26店が関東初出店である



三井アウトレットパーク滋賀竜王

2010年7月8日に開業し、I Cから500mの距離に立地している。京滋エリア初（関西では3施設目）のアウトレットで、三井アウトレットパーク入間・三井アウトレットパークジャズドリーム長島に次ぎ、国内第3位の施設規模である。テナントは、日本初出店が25店、関西初が49店であり、コンビニエンスストアのファミリーマートはアウトレットへの出店は三井アウトレットパーク入間に次いで2店舗目。約1,700人の雇用を創出する

土岐プレミアムアウトレット

- ・ 2005年3月4日 開業
85店（物販78店、飲食7店）
- ・ 2006年10月24日 第2期増設
111店（物販104店、飲食7店）

・ 2010 年 7 月 14 日 第 3 期 増 設

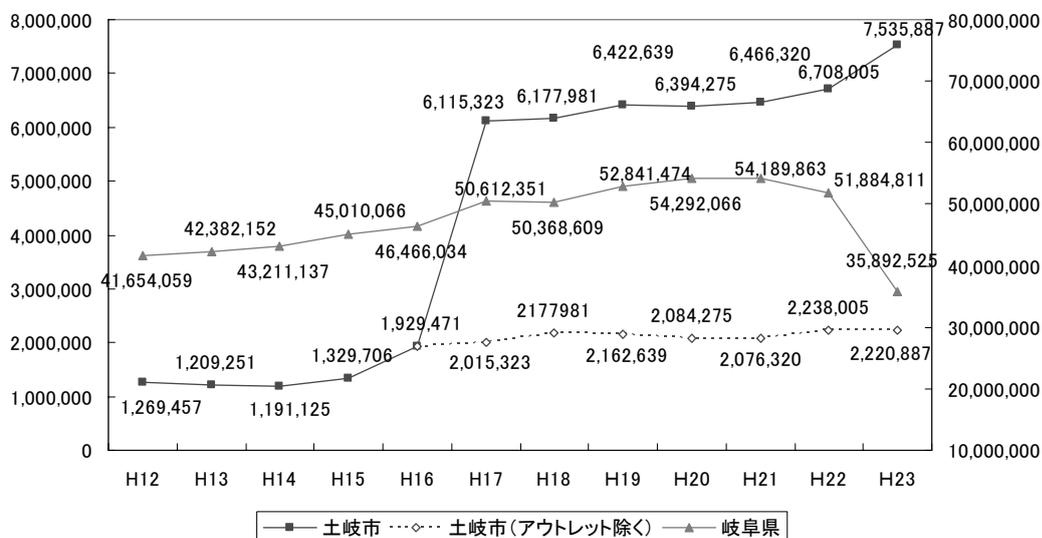
144 店（物販 133 店、飲食 11 店（フードコート含む））

《土岐市の変化》

・ 観光入込客数が急増（アウトレット以外でも上昇）。

（人：土岐市）

（人：岐阜県）



平成 25 年 土岐市観光振興計画より

アウトレット成功の主な要因 まとめ

- ・ 日本初出店の店舗が多くある（近隣に同じ店舗がない）。
- ・ 交通の便がいい（ICから10分以内）。
- ・ 話題性がある。アウトレットだけでなく、他の観光地がある。
- ・ リピーターがいる（長期的な存続のために）。
- ・ 観光ルート上に存在する。

他地域の失敗例からの教訓、成功例からの学びにより、小矢部市が打てる対策を考えてみる。

- ★ 話題性のあるものを構築
- ★ また来たくなる、市内を周遊したくなる仕掛けづくり
- ★ 観光ルートアピールでの小矢部市のイメージづくり

第2章 小矢部市の作戦

前章では、観光面、特に交流人口に着目した小矢部市の現状と他地域の実例に触れた。こういった大型商業施設の進出に対し、何をもって成功または失敗とするかはそれぞれの視点によって異なり、判断が難しいところではあるが、ここでは立地自治体、既存商店等の立場から考察してみようと思う。

1. 『MOP北陸小矢部』客引き付け作戦

(1) (仮称)三井アウトレットパーク北陸小矢部への期待

大型商業施設の進出による効果として、交流人口の増加を初めに思い浮かべる人は多いと思われる。実際、アウトレットモールへの来場客数は年間延べ300万人程度を見込むとされ、商圈は半径200km程度になるのではないかとのことである。あくまで現時点での“見込み”としても、2012年度年間観光客数が120万人だったことと比較しても、ひとつの商業施設での数字としてその大きさは一目瞭然である。

これまでになかった人の流れが生まれる。観光や商業にとって小矢部市を訪れる人の数は成否を決める要因のひとつであり、それが増加するという事はチャンスである。その人の流れを捕まえない手はない。

ただ、その人の流れを捕まえることが一番の難題であることも事実である。市内にアウトレットモールを持つ、ある自治体担当者に話を聞いた際、開業して10年ほど経った今でも、市内への人の誘導が課題に挙がっているとのことだった。おそらくこれは、アウトレットモールが立地しているほとんどの自治体に当てはまることだろう。

(2) まずはPRから

当たり前のことだが、『(仮称)三井アウトレットパーク北陸小矢部』(以下、『MOP北陸小矢部』とする。)への来場客は、『MOP北陸小矢部』での買い物を目的に小矢部市を訪れる。

国内で展開するアウトレットモールは、来場客の傾向から、大きく“観光地型”と“ベッドタウン型”に分けることができ、現時点での情報では『MOP北陸小矢部』は、それらの複合タイプである“混合型”になるようだ。適切かどうか分からないが、“観光地型”は遠方

からの来場客がメインで、“ベッドタウン型”は日頃の買い物感覚で訪れる比較的近隣からの来場客がメインといえるのではないだろうか。そういった来場客を、市内中心部や観光スポットへ誘導するためには、訪れる人の視線を『MOP北陸小矢部』から小矢部市へ向かせる必要がある。

来場客に小矢部市をPRする方法として考えられるのは、施設内に市内観光や特産物を紹介するスペースを設置すること、さらに市内商店や飲食店の出店による売り込みを行うことである。しかし、視察先で聞いた話では、「ブランド作りのためか、アウトレットモールの運営側にはあまり地元色を出したくないという雰囲気を感じられる」とのことだった。確かに、視察したアウトレットモールには、観光や特産物の紹介スペースがあったものの、紹介のみで購入はできなかった。

この点に関しては、大きく2つの方法が考えられる。

- ① 『MOP北陸小矢部』内に地元の飲食店や物産販売コーナーをあえて置かずに、ブースなどで紹介だけを行い、興味を持たせて市内周遊へと導く。「小矢部ブランドを味わいたかったら周遊しよう」的な構えで、アウトレットパーク自体には地元色はなくなる。
- ② 『MOP北陸小矢部』内に地元の飲食店や物産販売コーナーを積極的に設置して、市内周遊へと導けなかったとしても、『MOP北陸小矢部』内で小矢部の魅力を感じてもらおう。小矢部の物産を『MOP北陸小矢部』内で味わえる、地元色の強いアウトレットパークとなる。

『MOP北陸小矢部』でどちらの方法を採るか市で検討し、場合によっては三井不動産側へ交渉しなければならない。ほかに考えられるPR方法は、観光案内看板の設置など限られたものになってしまう気がする。

(3) 道の駅メルヘンおやべ

だが、小矢部市には「道の駅メルヘンおやべ」（以下、「道の駅」とする。）があるではないか。

今更言うまでもないが、道の駅とは、

- ・ 道路利用者のための「休憩機能」

- ・ 道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」
- ・ 道の駅をきっかけに、町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」

の3つの機能を併せ持つ休憩施設である(国土交通省ホームページ内「道の駅案内」より)。まさしく「情報発信機能」を期待される施設であり、実際、道の駅を覗けば、市内外の特産品の販売も当然に行われている。

現時点でははっきりしないが、他施設のように『MOP北陸小矢部』内に簡単な紹介所しか設置できないとしても、非日常のお買い物空間としての『MOP北陸小矢部』、おやべ情報発信基地としての道の駅といった分担が可能となるのである。

滋賀県竜王町のアウトレットモール開業後竜王町内にある「道の駅竜王かがみの里」の利用者は2割増



えただけだったようだが、この竜王町の道の駅とアウトレットモールとの距離は約5kmである。対する小矢部市の場合、道の駅は『MOP北陸小矢部』立地予定地から最短で200mに位置している。敷地面積が広いため一概には言えないが、徒歩でも3~8分程だろうか。ために、いくつかのアウトレットモールの立地を見てみると、道の駅のような自治体の情報発信を担う施設がこれだけ近接して建っている例は見られないように思う。

(4) 道の駅との連携

『MOP北陸小矢部』と道の駅との連携というよりも、『MOP北陸小矢部』への来場客をまずは道の駅に流す方策、と言った方がいいかもしれないが、これはそれほど難しくないのではないかと考える。

『MOP北陸小矢部』に来たついでに、道の駅に寄ってみようかな、と考える人で、道の駅利用者が増えることは容易に想像ができる。

加えるならば、両施設の敷地間に県道小矢部・伏木港線が走っていることから難しいかもしれないが、国道8号を経ずに相互にアクセスが可能な道路があれば、利便性が向上するのではないか。また、少し

空想を膨らませれば、天気の良い暖かい日に、散歩がてら歩いて行き来できるような『MOP北陸小矢部』と道の駅を結ぶ空中歩道があれば、面白いのではないかと考える。

(5) 稲葉山から始めてみる

「非日常のお買い物空間としての『MOP北陸小矢部』、おやべ情報発信基地としての「道の駅メルヘンおやべ」という視点に立って、例を挙げて考えてみたい。

まず、稲葉山を思い浮かべてみる。標高346mの稲葉山は、県定公園にも含まれ、牛の放牧場、展望デッキなど、家族やカップルで楽しめる自然の中の憩いの場である。特に、眼下に広がる大パノラマは四季を通して絶景が楽しめる、市内でも人気の観光スポットである。

言うまでもなく、この稲葉山は『MOP北陸小矢部』、道の駅から比較的近い距離にある。例えば、道の駅で稲葉山からの眺望を生中継、若しくは看板を設置してみたらどうだろう。「ここはどこなのだろう。」→「道の駅から近いの!？」→「じゃあ行ってみようかな。」と、都合のよい解釈ではあるが、稲葉山を訪れる人の増加に繋がらないだろうか。そうなってくると、受け入れるための環境整備も重要であり、実現可能かどうかは問わず、いくつか提案してみようと思う。

① 山頂までの道路整備

市外の観光客が車、できれば大型バスでも余裕を持って登れるくらいの道路があればうれしい。現在の道路は、観光客向けに整備されているとはいえない状態である。

② 歩道または遊歩道の整備

手軽なハイキングコースとして、道の駅を拠点に稲葉山に登る人が増えてくるかもしれない。①の道路整備に併せて歩道を設置する、又は、遊歩道を整備することで、受け入れる環境を作っていけばどうか。

③ 出張稲葉山牧野

東海北陸自動車道のスマートICからほど近い、某レジャー施設には、動物と触れ合えるコーナーを楽しみに親子連れが訪れているという話を聞く。そこで、道の駅でも動物広場を作ってみてはどうか。

④ 道の駅から稲葉山への空中遊覧

交通手段が無い人のために、そして、新たな観光資源として、道の駅～稲葉山頂を繋ぐロープウェイを作るのはどうか。『MOP北陸小矢部』への来場客へはもちろんのこと、3基の風車とともに遠くからでも目印となり、新たなPR効果も得られるのではないか。

④のロープウェイについては、他のロープウェイ施設の概要を見る限り、総工費は少なくとも数十億円以上になると思われるので、正直難しいとは思う。しかし、『MOP北陸小矢部』から空中歩道で道の駅へ、道の駅から稲葉山へ、稲葉山から小矢部市内周遊へというストーリーは、この後述べる市内周遊策においても一つの可能性となるのではないか。



2. 『MOP北陸小矢部』客市内周遊大作戦

(1) 市内施設・店舗割引券等配布作戦

① 先進地視察研修で得たヒント

～三井アウトレットパーク入間【埼玉県】、佐野市役所・

佐野プレミアムアウトレット【栃木県】～

三井アウトレットパークは、三井アウトレットパークカードの会員のみ、カードの提示で全国の三井アウトレットパーク周辺施設・店舗の優遇を受けられるというサービスを行っている。三井アウトレットパーク入間へ視察に行ったときに、これら割引等の特典は各周辺施設・店舗が各々で負担しているとお聞きした。施設・店舗側に負担はあるものの、認知度アップにつながっているという点で効果があると感じた。小矢部市でもこの効果に期待が持てる。

三井アウトレットパーク入間では観光施設との連携部署もあるそうだが、アウトレットのクーポンを観光バスで配布する程度で、ほとんど市内の施設とは連携していないとおっしゃっていた。せっかくそのような連携部署があるのだから、小矢部市では、アウトレット、周辺施設及び中心街との連携をどのようにしていくか、定期的な話し合いの場を設けたい。

プレミアムアウトレット系列では、カードの提示で周辺施設・店舗の優遇を受けられるというサービスを行っているだけでなく、周辺施設を利用するとアウトレット割引券がもらえるという企画を期間限定で多数行っている。そのため、アウトレットの

ホームページに、割引券を配布している施設を分かりやすく掲載しており、三井アウトレットパーク入間よりも周辺施設との連携がなされていると感じた。佐野市役所職員が言うには、それらの企画には関与していないのでどれほどの効果があるのかは分からないとのことだ。しかし、小矢部市でも周辺施設を利用するとアウトレット割引券がもらえるという企画を行えたならば、相互作用による周知効果が増すのではないだろうか。

② 他市のクーポン券販売企画

どの企画も、1店舗での利用につき1枚のクーポン券を使用できることと、制限している。以下、3市について企画の詳細を記載する。

黒部市「宇奈月食べ歩きクーポン」

(黒部・宇奈月温泉観光局HPより)

- ・ 販売価格：500円
- ・ 販売期間：H25.10.1～H26.3.31
- ・ 利用期間：H25.10.1～H26.4.2

10店舗の中で3店舗使用できる食券、セレネ美術館の入館200円割引券、電気自動車・電動アシスト自転車レンタル100円割引券がセットになっている。



七尾市「和倉温泉スイーツめぐり」

(和倉温泉観光協会HPより)

- ・ 販売価格：500円
- ・ 販売期間：H25.10.1～H26.3.31
- ・ 利用期間：チケット購入日から2日間のみ有効

和倉温泉街にあるスイーツ店10店舗の中で3店舗使用できるチケットとなっている。チケットの利用は、1名に限るという制限がある。



金沢市「金沢和菓子めぐりクーポン」

(金沢市観光協会HPより)



- ・ 販売価格：500円
- ・ 販売・利用期間：
H25.12.1 ~ H26.3.31

金沢市内の和菓子店7店舗と兼六園の茶店4店舗の中で4店舗和菓子を食べることができる。

③ 小矢部市のクーポン券販売作戦

アウトレットパーク会員に限定せず、市内施設・店舗への回遊効果が見込めるように、クーポン券販売作戦を具体的に提案する。

提案 I

「おやべホワイトラーメン共通クーポン券」の販売
おやべホワイトラーメンのミニドンブリメニューを作り、1,000円のクーポン券で好きなお店3店舗を巡る。

効果

現在ある「おやべホワイトラーメンMAP」がより活かされ、ホワイトラーメンの周知を推進する効果がある。クーポン購入者は、複数の店舗でラーメンを食べることで、お気に入りの店を見つけることができる。

提案Ⅱ

「食べ歩きクーポン券」の販売

洋菓子和菓子店、喫茶店、パン屋などの店からスイーツを提供してもらう。黒部市のように、食券3枚、施設の入館割引券、電動自転車レンタル割引券がセットになっているクーポン券を500円で提供する。

効果

商店街や駅周辺での食べ歩きを促すことで、商品提供店舗の宣伝効果と、アウトレット目的の客を商店街等に目を向けさせる機会を得ることができる。

小矢部市版クーポンイメージ例（とやま子育て応援団HPより）



とやま子育て応援団とは、優待券を提示すると、18歳未満（高校等在学者含む）の子ども連れの家族が協賛店を利用した場合に、割引や特典等の各種サービスが受けられるというものである。

④ その他 市内施設・店舗割引券等配布作戦

提案Ⅰ

アウトレットパーク内で一定額以上の商品を購入すると、周辺施設・店舗の使用期限付き入場券・商品券がもらえるという企画を、期間限定で行う。

効果

アウトレットパーク目的の客が、商店街等に目を向ける機会を得ることができる。入場券・商品券の使用期限については、当日限り有効など、利用・購買への衝動を掻き立てる短めの期間を設定する。期間限定で行うことで、特別感を演出し付加価値を演出する。

提案Ⅱ

市内施設・店舗の地図のついたクーポン雑誌を作成し、市内各所に配置する。電子クーポンも配布する。

効果

クーポンについては、店舗の場合「5,000円以上の購入で1,000円値引」など、購入金額に応じた割引を設定し、1人当たりの購入金額増加を狙う。

提案Ⅲ

市内に限定せず、富山県内施設・店舗のクーポン雑誌を作成する。アウトレットパークに富山県内のゆるキャラを集めて、イベントを行い雑誌を配布する。

効果

県外から県内への来客数が増えるように、富山県全体で協働し、県内施設・店舗を対象としたクーポン雑誌を作成する。イベントを企画して期間限定で配布することで、アウトレットパーク側の協力を得やすいように考えた。

料金割引、入場券、商品券以外のクーポン例

- ・ 商店街からアウトレットパークまでをつなぐバスの無料券
- ・ 石動駅の駐車場無料券
- ・ 宿泊所の朝食においてデザート1品サービス
など、多様なクーポンを作成したい。

⑤ 問題点

クーポンの作成には資金と労力がかかり、体制作りに時間が掛かることが問題である。定期的にクーポンを作成すると、割引

クーポンで訪れた店へは、同じ割引クーポン以上の割引でなければ客が訪れなくなる可能性があり、提供側はクーポンの発行を停止しづらくなる可能性がある。クーポンによる価格競争の激化が予想される中で、企画に協力してもらえる施設・店舗をどれだけ確保できるかがカギである。

また、アウトレットパーク目的の客を商店街等に目を向けさせるためには、クーポン券の広告について、チラシの配置等アウトレットパークの協力が必要不可欠であり、アウトレットパークとの交渉が必要となる。

⑥ 作戦成功への道

まずは、小規模に小矢部市のクーポン券販売作戦を実施し、様子を見て範囲を拡大していきたい。協力していただける施設・店舗を獲得するためには、クーポンの経済効果を統計し、実績をプレゼンテーションして、地道に活動していくことが大切である。

また、アウトレットパークに対し、市内施設・店舗割引券等の配布が小矢部市の観光客数を増やし、アウトレットパークの売上との相乗効果が見込めることをアピールし、連携について交渉して行くことも大切である。

以上の活動により、小矢部市の経済効果を全体的に波及させ、地域を発展させていきたい。

(2) モデルコース作戦

ここではアウトレットパークへ買い物に来るお客様の交通手段別にコース設定を試してみた。

① 車の場合

アウトレットパークは広い駐車場が完備されるため、ほとんどが車での来店となり、“車で移動できること”が考えられる。しかし、それでは市内周遊へつながりにくく、アウトレットパークと高速道路との往復だけになってしまうおそれがある。

そこで、アウトレットパークに車を置いたまま移動可能にするため、周辺に観光専用巡回バスを設ける。バス自体にも特色を出し、例えば高岡市のドラえもん電車のようにキャラクターラッピングバスにするのも面白いのではないか。

バスとすれ違った際に、「あれ乗りたい！」と思わせるくらいインパクトがあればなおよし。

浅草観光用の無料バス（パンダバス）



浅草-上野間無料バス:パンダバス



パンダバス案内ルート図

○期間限定コース（例えば季節ごとに…。）

春 城山公園 → 倶利伽羅不動寺 → 道の駅

夏 宮島峡 → 子撫川ダム → 道の駅

秋 ふるさと歴史館 → 桜町 JOMON パーク → 道の駅

冬 水島いちごハウス

→ おやたま食堂

→ 道の駅



倶利伽羅サクラ♪

○こだわりコース

自由の像 → 松本正雄像 → 大谷兄弟像 → 道の駅
宮めぐり（勝手にパワースポット風に） → 道の駅
医王院・若宮古墳 → 道の駅

○まち研イチオシ！コース（市内のパワースポットめぐり）

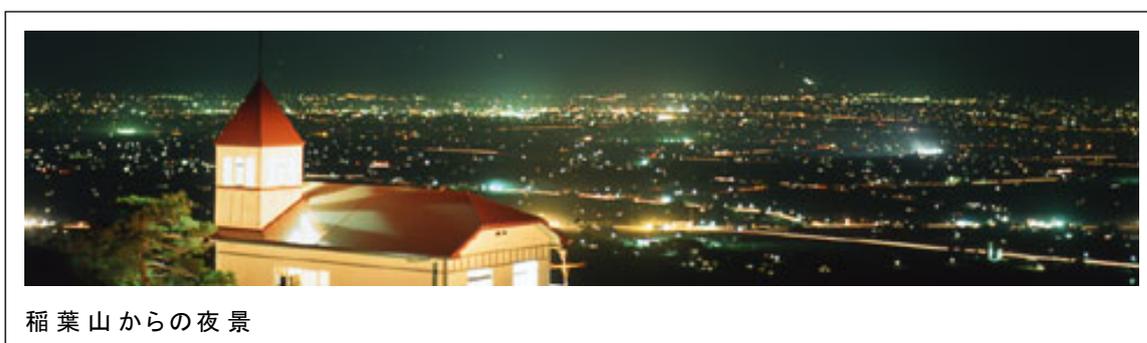
久利須（市内の標高最高点）
→ 宮島大杉、観音滝（小矢部の秘境！）
→ 埴生護国八幡宮
→ クロスランドおやべ（恋人の聖地）



とはいっても、「観光専用巡回バスより車で時間に関係なく
自由行動したい」方向けにも提案

○夜景コース

俱利伽羅の途中からの散居村の眺め
クロスランドタワーからの散居村の眺め
稲葉山からの眺め



○グルメコース

ホワイトラーメン食べ比べ

○クロスランドおやべ満喫コース



② シャトルバスの場合（石動駅・アウトレット間運行の前提で）

- ・電車の待ち時間等に、ぶらり商店街へ行きたくなるような仕組みにする。
- ・JRを利用する学生でも買えるように、B級グルメ的なコロッケなどを路面販売し、商店街で食べ歩きできるようにする。また前述の商店街発行の「食べ歩きクーポン券」の利用にもつながるのではないか。
- ・石動駅に、荷物用のコインロッカーを整備すれば身軽でよい。また、ちょっと遠くまで足をのばしたい方にはレンタサイクルを充実させる。

○ぶらり町散策コース

- ・食べ歩きクーポン利用 Ver.
コロッケ等の食べ歩き
和菓子とお抹茶セットを店先でいただく



- ・寺院めぐり Ver.
市役所周辺の寺院散策

- ③ 大型観光バスの場合（団体向け施設整備、バス用駐車場整備済みの前提で）
日帰りバスツアー等、アウトレットパークの買い物だけから市内
周遊へつなげる企画を、旅行会社等へ提案

☆ドキドキ体験ツアー

稲葉山牧場（エサやり体験、小動物とのふれあい体験）

宮島観光栗園（栗拾い体験）

クロスランドおやべ（オモシロ自転車試乗体験、パットゴルフ
対決！！）

桜町 JOMON パーク（縄文時代体験）



稲葉山ふれあい広場



パターゴルフ場

- ④ 自転車の場合

○メルヘン建築めぐりコース

藪波公民館 ⇄ サイクリングターミナル



サイクリングサイクリングヤッホー♪ サイクリングターミナル

石動中学校 ⇄ 大谷中学校



石動中学校



大谷中学校

○山めぐり健脚コース

道の駅 ⇄ 稲葉山（346m）頂上

足に自信がおありのあなた！道の駅の電動アシスト自転車を借りて、稲葉山に登ってみてはいかがでしょうか。足がツリそうになるかもしれませんが、下りの爽快感はサイコ～！です。

⑤ そのほか交通手段問わず

- ・おやべの祭コース
- ・お父さんの暇つぶしコース
- ・七福神めぐり（「七福神像を活かしたまちづくりについて」参照）
- ・お地蔵さんめぐり



いろいろなシーンに合わせて観光コースを挙げてみたが、どのようにアウトレットパーク買い物客へ周知することができるか…。

- ・アウトレットパーク内に小矢部市の情報コーナーを設け、メルヘンガイドなど、「地域の観光に詳しく、熱い人たち」に常駐してもらおう。可能ならば、実際にガイドもしていただき、小矢部市の熱さを伝えることで、それが地域の魅力として感じてもらえるに違いない。
- ・アウトレットパーク内に地元色を出したくない雰囲気があるなら、小矢部市の情報拠点を道の駅に置くことを前提に考え、観光コースのチラシや案内パンフレットを設置する。小矢部のお土産（特産物）を買っていただくと同時に、ほかの場所にも行ってみたいと思わせる。また道の駅内のモニターに、各種祭りの様子をLIVE中継し「ちょっと見てみようか！」と足を運ばせる。

第3章 小矢部市が準備できること

1. 視察から見えてきたこと

佐野市では観光案内的な施設はあるものの、直接、特産品等を販売するといったものではない。入間市でも、地元特産品のワゴン販売等を実施したことがあるが、期間限定で常設ではない。アウトレットモール施設内では、なかなか地元を活かせない。

しかし、地元色を全面に出すことはできないが施設内広場でイベントやキャンペーンなどを行い、これからのアウトレットモールとして他にはない「何か」が必要。どんどん差別化が起こるのではないかと考える。まだオープンもしてないが、生き残りをかけた仕掛けは必要。

佐野市、入間市ともに、アウトレットモールだけでなく周辺には大型スーパー等が建っている。今後、小矢部市においても、周辺地域の整備を行っていくべき。

周辺地域といえ、今回の研究では触れなかったが、視察で見えたこととして、周辺道路の交通渋滞の問題もある。視察先での話では、渋滞が起きてからでないとなかなか国道の車線拡大は難しいということだった。しかし、過去のアウトレットモール開業時の状況を考慮すると、交通渋滞が起きることは必至である。できれば、開業前に国道8号の4車線化を実現したい。

2. 市民ができること

- ・ 市民一人一人が、「お客様を迎え、市の魅力を伝える意識」を持つ。
- ・ 飲食店、商店街のクーポン券発行等の積極的参加
- ・ 交通渋滞を避けるため、休日のマイカー乗り入れ自粛

3. 行政ができること

- ・ 他県、他市へ積極的にアピールし、また連携できる体制づくり
- ・ 名称に「北陸小矢部」が付くことから、市内のほか、周辺観光地へのアクセスも便利であること等を示し、他県他市と協力し合う。
- ・ アウトレットとともに双方が発展できるよう、十分な協議の実施
- ・ 観光案内の一助として、北陸地域の自治体の「北陸観光ガイド(案)」を作成し発行する。
- ・ 常に、新しさ・刺激を求めるような、イベント力を向上させる。
……といいつつ、小矢部市の古き良き伝統も大切に。

まとめ

アウトレットモール創設に向けての一番のポイントは、「いかにして共存共栄を図っていくか」にある。「第1章3.(2)成功例」で挙げた佐野プレミアムアウトレットがある佐野市でさえ、アウトレットモールができて10年が経つ今でも、今後の課題として「中心市街地や市内にどれだけ入込客を呼び込むか」を挙げておられたことは、様々な対策をおこなってもなかなか効果が上がりにくいということであり、対策の重要性を物語っている。

そこで、第2章では、

- ・ アウトレットモール来店客の視線を市内に向けさせるため、道の駅との連携を強化すること
- ・ 市内施設・店舗の経済効果を高めるため、クーポン券を販売し、来客者の交通手段別に、市内周遊モデルコースを整備し例示すること

について述べ、「小矢部市にまた来たくなる」「市内を周遊したくなる」仕掛けづくりについて、具体的に提案を行った。

また、第2章で示したように、アウトレットモールを地元色のあるものにするのかしないのかは、成功の鍵を握る大きな選択になるので、市が一体となって先を見据えてしっかりと協議し、決定しなければならない。

アウトレットモールと周辺施設、中心街との連携をどのようにしていくか、定期的な話し合いの場を持ち、アウトレットモールの高い集客力によって人々が集まることによる波及効果を逃すことなく、小矢部市の賑わいにつなげていくことが大切である。

アウトレットモール来店客をそのまま帰路に就かせずに、市内周遊へと導き、小矢部市の魅力を感じてもらうための、この研究が、今後のまちづくりに活かされることを期待し、まとめとする。

フォトコンテストの開催による観光促進について

はじめに

1. 目的
2. 募集テーマ
3. 実施方法
4. 他自治体・団体の事例
5. 恒常的な実施に向けて

まとめ

はじめに

小矢部市には、倶利伽羅古戦場や桜町遺跡を始めとする歴史、稲葉山や宮島峡に代表される自然、メルヘン建築やクロスランドタワーなどの建築物といった魅力ある観光資源が数多く存在する。

しかし、上記のような観光資源とは別に、広く知られていない美しい風景や、当たり前になって気付かないが、小矢部市にしかない風景がまだまだあるのではないか。

そこで、これらの風景の発掘・発信するため、フォトコンテストの開催を提案する。

1. 目的

(1) 市の活性化

小矢部市の美しい風景を多くの人に知ってもらうことにより、地域に対する愛着を育み、活性化につなげる。

- 気付かなかった小矢部市の風景の発見
- 小矢部市の守りたい風景の再認識
- 市内外の人に小矢部市の姿をPR



(2) ロケ地等の誘致活動に

ドラマのロケ地や、アニメのモデルになることで、多大な集客効果を期待できる。通常、ドラマ・アニメ等の誘致には長期的な費用と労力が必要になる。

市内で定期的にフォトコンテストを開催し、小矢部市の風景を全国に発信することで、制作者の目に留まる機会が増えることを狙えないだろうか。

2. 募集テーマ

募集する写真のテーマについては、小矢部市の様々な風景を発見・発掘してもらうことが目的であるため、以下のようなものが考えられる。

- おやべ新発見フォト
- おやべ百景フォト

また、市内で開催されるイベントの情報発信を兼ね、イベントの都度、フォトコンテストを開催してはどうだろうか。

- メルギュー君と踊ろう
盆踊りフォトコンテスト



- 酒とり祭りフォトコンテスト
ふんどしを、どしどし撮ろう！



3. 実施方法

撮影した写真を印刷し、提出する方法では、投稿までのハードルが高く、多くの投稿が見込めない。また、ウェブサイトの専用フォームを通しての投稿も、煩わしさを感じる人がいるかもしれない。

これらの方法と比べ、facebook 等の SNS であれば、日常的に使用しているシステムを通しての投稿であるため、より気軽に参加してもらえることが見込める。また、良い風景を見つけ、すぐに撮影できるスマホ等の端末から一番投稿しやすい方法も、普段スマホで利用している SNS であると思われる。

facebook は、今までは規約により、キャンペーンを行うには専用のアプリやタブページが必要であった。しかし、2013 年にその規約が変更されたことで、いいね！やメッセージによってキャンペーンに参加することが可能になっている。

4. 他自治体・団体の事例

(1) WOW! Japan Campaign



観光庁による facebook 連動キャンペーン

このキャンペーンの中で、外国人記者を対象に、訪日時に撮影した写真によるフォトコンテスト“Share your WOW!”を実施している。

受賞者には、「名前入り花火、花火鑑賞、屋形船」「東京近郊の聖地巡礼ツアー&Tokyo Otaku Mode オフィス訪問観光プラン」など、日本の魅力を伝える賞品が用意されている。

(2) 南島原フォトコンテスト「おいしい南島原」



南島原市によるフォトコンテスト

前年は、「撮ってくれんね！南島原 コンテスト」の名称でコンテストを開催していたが、次年度はテーマを食に絞り、写真を募集している。

年間のグランプリには「30万円」、月刊賞には「1万円」、特別賞は「南島原特産品セット1万円分」を賞品としている。

(3) 返子ステキ発見！景観フォトコンテスト

返子ステキ発見！
景観フォトコンテスト

景観フォトコンテストとは
募集要項

募集期間

- 一期募集
平成24年10月1日～平成25年3月15日
- 二期募集
平成25年3月16日～平成25年6月30日
- 三期募集
平成25年7月1日～平成25年9月30日

たくさんのご応募ありがとうございました

受賞作品 **アンダー-18**

開催協力 **1年を通して返子の魅力を大募集**

写真でまちのステキを共有しよう

返子ステキ発見！景観フォトコンテストPR

美しい返子のまちを
将来に継承するため
「景観資産登録」
を目指しています

景観フォトコンテストの応募写真 公開中

返子ステキ発見！景観フォトコンテスト
facebook ページ

写真講座

まち歩き

瓦版

返子市と市民が協働して「景観資産登録」を目指し、その活動の一環として返子の「ステキ」を共有するためフォトコンテストを開催し

ている。

投票によるグランプリには賞金「5万円」、その他の賞にも賞品を用意している。また、景観フォトコンテストの作品によるフォトブックを作成している。

(4) 「心に残る神戸の風景」、「神戸で見つけたとある一日」



心に残る神戸の風景
Scenery in Kobe

いいね！ 1,158人・話題にしている人208人

いいね！ フォロワーする メッセージ *

政府機関
神戸市内の美しい風景を撮影した写真を投稿するページです。
「基本データ」を必ず読んでください。

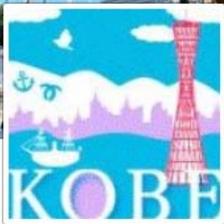
基本データ - 変更を提案



写真

いいね！ 1,158

いいね！



神戸で見つけたとある一日 A
taste of daily life in Kobe

いいね！ 627人・話題にしている人106人

いいね！ フォロワーする メッセージ *

政府機関
神戸の暮らしの1コマを撮影した写真を投稿するページです。
「基本データ」を必ず読んでください。

基本データ - 変更を提案



写真

いいね！ 627

いいね！

市ホームページのトップに掲載する写真を募ることを目的として、神戸市が運営する facebook ページ。テーマを「心に残る神戸の風景」、

「神戸で見つけたとある一日」の2つに分けて募集しており、ページも2つに分けて運営されている。掲載期間中にいいね！を最も多く集めた写真が、神戸市ホームページのトップに掲載される。

賞品・賞金は無いが、数多くの人に見られる市ホームページのトップに自分の写真が掲載されることが、魅力的な賞品といえるのではないだろうか。

5. 恒常的な実施に向けて

(1) 魅力的な賞品の提供

綺麗な風景、楽しい瞬間を形に残し、いろいろな人と共有したいという思いが写真を撮る原動力になるが、それだけでは普段撮らない人が写真を撮り、コンテストに応募してもらうことは難しい。「4. 他自治体・団体の事例」で紹介した事例のように、魅力的な賞品や賞金を用意することで、参加を募ってはどうか。イベントにちなんだ商品や、市内の特産品を賞品とすれば、PRにも繋がるのではないか。

また、神戸市の事例のように、素晴らしい写真を市ホームページのトップに掲載できれば、ひと目で分かる市の魅力発信とともに、撮影者のモチベーション向上に繋がるのではないか。

(2) コンテンツの集約

市内では既に、「メルヘン小矢部フォトコンテスト」や、年々集客を増やしている三大祭をテーマにした「津沢夜高あんどん祭りフォトコンテスト」、「小矢部市獅子舞連合会デジタルフォトコンテスト」が実施されている。



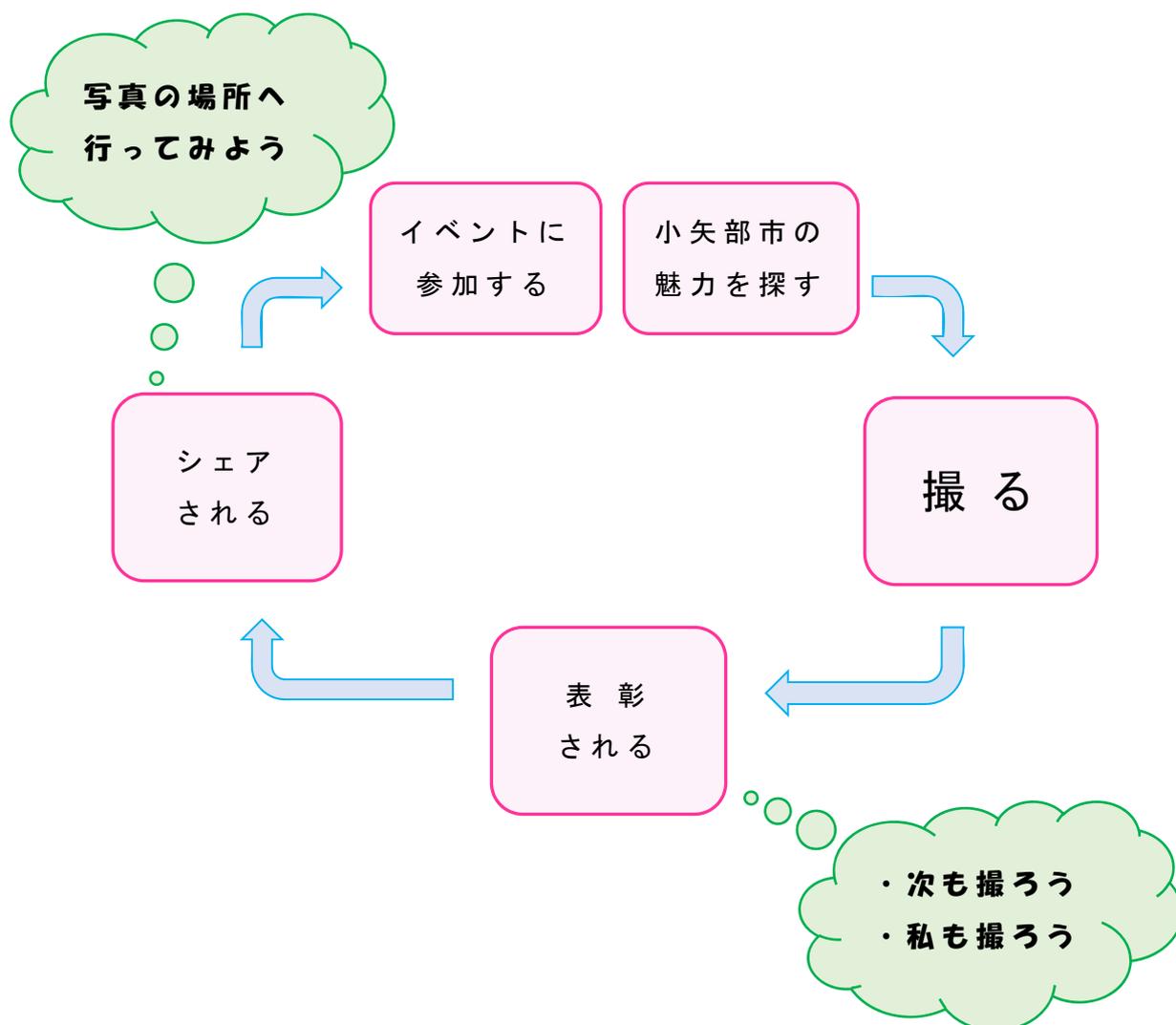
「津沢夜高あんどん祭」



「おやべ天神獅子舞祭」

現在、複数の主催者により開催されているこれらのコンテストを、市が開催するコンテストの1テーマとして、集約できないだろうか。

また、「2. 募集テーマ」で挙げたような、市内で行われる各イベントと合わせ、イベントの都度コンテストを開催することで、通年的に写真を募集することができる。より多くの人に参加してもらうことで、より多くの人に写真を見てもらう機会が増え、参加者のモチベーション向上にも繋がるのではないだろうか。



まとめ

写真は気軽に撮れる上、一目で対象の魅力を伝えることができる優れた表現媒体である。しかし、多くの人に個人で撮った写真を見てもらうには、ハードルが高い部分がある。

フォトコンテストとして市が発表の場を提供し、市内外の方に小矢部市の魅力的な場所・瞬間の写真を提供してもらうことで、市のPRや市内活性化の手段と成り得るのではないかと思う。

健康寿命の延命化を検証する！

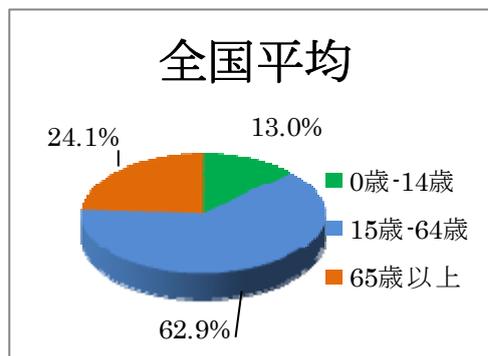
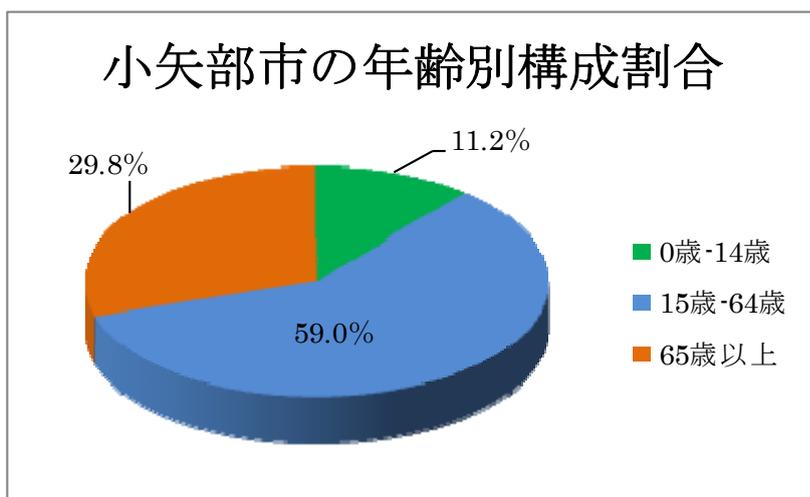
1. 中間報告からその後
2. 介護予防について
 - (1) 要介護状態になる原因
 - (2) 介護予防の重要性
 - (3) 小矢部市における取組
3. 介護の予防ではなく、健康寿命の延命を考える
生涯スポーツの充実
4. 健康寿命の延命に効果的な活動～小矢部市で考える～
 - (1) 夜間でも安全に歩けるウォーキングコースの設立
 - (2) マラソン大会の開催
5. まちづくり研究会としての提案
市内七福神の周回コース（ウォーキング）を設定

1. 中間報告からその後

我々は昨年の中間報告で、介護予防事業に関する補助金の提案をおこなったところである。それは、全国平均から見てもやや高めにある、小矢部市の高齢化率にある。また、今後いわゆる団塊の世代が、前期高齢者となる65歳を迎えるのが2015年、その10年後の2025年には75歳以上となり、後期高齢者となっていく。2025年問題とも呼ばれ、急激に進む高齢化社会に対応するために、まちづくり研究会として何かできないかと思い、高齢者が元気で生きがいを持って、できるだけ長い間自立した生活を送ることを目的に、要介護状態になることを防げるような活動をする団体や個人に、その活動費を援助するような制度を作り上げてはどうかという提案であった。

中間報告後、検証を重ねていくにつれ、高齢者にターゲットを絞った政策ではなく、また補助金などの単発的な制度を作るのではなく、できるだけ公費を使うことなく、若者から高齢者まで全世代を対象とする健康増進事業がもっとも人が自立した生活を送ることができ、介護が必要な状態になることを予防（介護予防）することができる効率的かつ魅力的な政策ではないかという結論に至った。

では、そもそもなぜ今、介護予防という考えが必要になってきたのかを次ページで検討していくこととする。



2. 介護予防について

(1) 要介護状態になる原因

人生 80 年といわれる今日、いくつになっても生きがいをもち、自分らしく生活することは、多くの人の願いである。そのためには、心も身体もできるだけ長く健康を保ち続けることが何よりも重要である。

最近では、元気で活動的なシニアの方々も多くなっており、「介護や支援の話など、自分にはまだ関係ない！」と思っている方も多い。しかし、高齢化が進む中で、介護が必要となる方だけでなく、家事や身の周りの支度などを自分だけでおこなうのが難しくなり、日常生活の中で支援を必要とする方も増えているのも事実。何らかのきっかけで身体を動かす機会が減り、身体を動かさない状態が続くことなどにより、身体を動かさずらくなってしまいう可能性が誰にでもある。

身体の機能は、少しずつ変化していく。少し歩きづらい、疲れやすいなどと感じたとき、年のせいだからなどとあきらめて、日頃おこなっていた活動や外出をしなくなってしまうと、活動が低下し筋力が衰えたり関節が固くなったりする。また、食欲が減り栄養不足になってしまい、体力が落ち、気力や意欲もわかなくなることもある。その結果、さらに身体を動かさずらくなり活動が低下し、負のスパイラルに陥ってしまうのである。このように、負のスパイラルに陥ってしまうことで、ちょっとした不調から、支援や介護が必要な状態に繋がってしまうのである。



(2) 介護予防の重要性

介護予防は、「要介護状態の発生をできる限り防ぐ（遅らせる）こと、そして要介護状態にあってもその悪化をできる限り防ぐこと、さらには軽減を目指すこと」と定義されているが、単に介護が必要な状態になるのを防ぐためにおこなうのではない。その目的は、高齢者の方自身が、活動的で生きがいのある生活や人生を送ることができるようにすることである。

あまり外に出歩かなくなったり、ほかの人や社会と接する機会が少なくなったりすると、活動量が減ったりして、心や身体の機能が低下していくおそれがある。いつまでも自分らしい生活を維持することができるように、高齢者の方々自らが、日頃から積極的に外出して地域の活動に参加したり、地域の人と交流したりするなどにより、生きがいややりがいを見つけ自己実現を果たすことで、生涯を通じて「介護予防」を続けることが重要である。

このように、介護予防は継続して取り組むことが重要であるが、各市町村では、広く65歳以上の方を対象にして、早くから心や身体の機能が低下して動きづらくなることを予防し、健康を維持するための「一次予防事業」として、自主活動を支援したり、地域サロンなど高齢者が誰でも参加できる場や機会を増やし、高齢者の介護予防の取組を支援している。

また、各市町村では日常生活で身の回りのことや家事などが少しやりにくくなってきた方を対象にして改善を図る「二次予防事業」がおこなわれている。

小矢部市においても、様々な介護予防事業をおこなっているところである。以下に主な介護サービスを紹介する。

(3) 小矢部市でおこなっているサービス

① 介護予防・生きがい活動支援

・寝たきり予防普及啓発

介護認定非該当の高齢者を含む一般高齢者及びその家族を対象に、転倒骨折予防教室の開催、自立支援教室（炊事・洗濯等の家事訓練）の開催、認知症予防・介護教室の開催、アクティビティケア（音楽活動、絵画、書道等）をおこなう。

- ・ 地区組織活動育成支援

適切な事業運営が確保できると認められる者に委託し、転倒骨折予防、認知症予防、IADL 訓練等に関する知識の普及・指導援助などの介護予防事業を実施する。

- ・ ふれあいいいきサロン事業

高齢者の心身機能を維持し、生きがいを持って地域で暮らせるよう各種介護予防に資する活動を行うグループを支援する。

- ・ 生きがい活動支援通所事業

概ね 65 歳以上の介護認定非該当者を対象に、寿永荘やつざわランドにて、利用者のニーズ及び身体の状態に応じて、日常動作訓練から趣味活動（生きがい活動）等の各種サービスの提供をおこなう。

② 生活支援

- ・ 食の自立支援事業

栄養バランスのとれた高齢者向けの食事を提供するとともに、利用者の安否確認をおこなう。

- ・ 外出支援サービス事業

移送用車両により、在宅福祉サービス、医療機関等への送迎をおこなう。

- ・ 寝具洗濯消毒乾燥事業

要介護高齢者や自分で布団の天日干しができない一人暮らしの高齢者を対象に、年 1 回布団の洗濯消毒乾燥をおこなう。

- ・ 高齢者等見守り支援事業

装置を利用して、日常生活における相談に対し、助言したり、緊急時の通報に対し、協力員への確認依頼等必要な措置をおこなう。

- ・ 高齢者ミドルステイ事業

やむを得ない事由で中期にわたり、在宅での介護が受けられない場合に、ショートステイの期間が 3 か月限りで延長できる。

- ・ 老人福祉電話運営事業

ひとり暮らし高齢者や安否の確認が取りにくい高齢世帯に対し、福祉電話を貸与し孤独感解消を図り、関係機関及び地域住民の協力を得て安否の確認をおこなう。

- ・在宅要介護高齢者福祉金支給事業

在宅の要介護高齢者の福祉の増進を図るために、福祉金を交付する。

- ・おむつ引換券支給事業

在宅の要介護高齢者に対し、1か月2,000円のおむつ引換券の支給をおこなう。

- ・訪問介護利用料助成事業

低所得の要支援・要介護高齢者に対し、介護保険訪問介護利用料の助成をおこなう。

③ その他

- ・高齢者等除排雪支援事業

一定要件を満たした高齢者世帯等に対して、屋根及び住宅周辺の除雪作業にかかる経費の助成をおこなう。

- ・高齢者地域支援事業

介護保険の対象にならない高齢者のニーズや介護保険のサービスでは対象とされない細かいニーズに対応することができるように、高齢者福祉推進員に対し、各種福祉サービスの研修をおこなう。

我々は、年を取ると身体の機能などが低下してくるのは仕方がないと思っていないだろうか。平均寿命が80歳を超えている現在、長い人生を自分らしく過ごすためには、心と身体の機能の維持・向上を図る「介護予防」をおこなうことが重要である。

健康寿命という言葉があるが、WHO（世界保健機関）によれば、健康寿命とは、「日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間のこと」である。つまり、平均寿命から自立した生活ができない期間（要介護状態）を引いた数が健康寿命となる。厚生労働省の2010年の統計によれば、日本人の健康寿命は男性で70.42歳、女性で73.62歳である。同省の同年の平均寿命は男性79.55歳、女性86.30歳となっているので、あくまで平均であるが、男性で9.13年、女性で12.68年の介護が必要という結果になる。

3. 介護の予防ではなく、健康寿命の延命を考える

介護予防の必要性を前述したが、そもそも健康寿命というものを考えたとき、それを伸ばそうと考えたとき、高齢者になってから急に予防を始めるのでは遅過ぎる。健康寿命を延ばすことを考えると、比較的身体の機能が低下する前の、若年時代からの取組が大切になってくる。加齢とともに衰えてくる身体機能を、若年時代から維持・向上していくことが健康寿命の延命に繋がるのである。

では、身体機能を維持・向上していくにはどのような取組をしていくことが良いのかを以下で検討する。

《生涯スポーツの充実》

生涯スポーツとは、生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションを目的に「だれもが、いつでも、どこでも気軽に参加できる」スポーツをいう。一般的に、生涯スポーツは競技スポーツよりも運動強度が低いのが特徴で、既存のスポーツに加え、体力に過剰な負担を掛けることなく気軽におこなえる、ニュースポーツも考案されている。

この生涯スポーツの意義や役割としては、以下のものが考えられる。

- ・爽快感や達成感、知的満足感等の精神的な充足
- ・人間的なふれあいを深め、他者との連帯感を感じる。
- ・集団の中で自己の個性を発揮し、自己実現
- ・健康の保持増進、体力の向上
- ・見る人にも、大きな感動や楽しみや活力を与える。
- ・国際的な相互理解と友好・親善を深める役割

生涯スポーツというと、どのようなものがあるのだろうか。我々の知っている範囲では、キンボールやカロリーング、グラウンドゴルフ、ペタンク、スポーツチャンバラなどが思いつくが、その種類は豊富で、インディアカやエアボール、エスキーテニス、カバディ、グラススキー、クリケット、シャトルボール、スポーツ吹き矢、ダーツ……などなど、どのようにおこなうか分からない競技も含め非常に多くの、記載しきれないほどの種類が存在する。つまり、自分の体力にあったものを選択することができ、それをおこなうことによって健康増進に繋がっていくのである。

4. 健康寿命の延命に効果的な活動～小矢部市で考える～

(1) 夜間でも安全に歩けるウォーキングコースの設置

健康のために歩くという方は少なくないはずである。近年、健康ブームとともに注目を集めるようになってきたのが、生涯スポーツとしても有名なウォーキングである。ウォーキングは健康づくり、体質改善、ダイエット等に挑む人間の初めに取り掛かるものとして、「身体にいい」というイメージが定着しつつある。実際のところ、ウォーキングには大きな健康効果がある。肥満による高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病防止、自律神経の機能改善、ストレス解消、脚・腕・体幹の筋肉や骨量の増強等である。

ほかのスポーツと比べてさほど激しい運動とはいえないウォーキングであるが、なぜ、こうした効果が期待できるのであろうか？それは、ウォーキングが典型的な有酸素運動だからである。有酸素運動とは、体内に酸素を多く取り入れながらおこなう運動のことである。筋肉の収縮に酸素を使うことにより、心肺機能を高め、血液の循環を促すほか、基礎代謝を高め、脂肪を燃焼させる。ウォーキングを始め、ジョギング、水中運動、水泳、サイクリングなど。反対に、短距離走やダンベル体操、腕立て伏せなど、酸素を必要としない運動を無酸素運動と呼ぶ。

ウォーキングの主な健康効果

① ダイエット効果

有酸素運動によって取り入れられた酸素が、血液中の脂肪と結合し、ともに燃焼する。結果的に新陳代謝が促進され、余分なカロリーを消費することができる。

② 骨粗鬆症防止

日頃運動することで、骨に適度な負荷を掛けると、骨密度が保たれる。また、屋外で日光に当たることによって、体内のビタミンD生産を促すことができる。

③ ストレスやボケ防止

ウォーキングを30分以上続けると、 β エンドルフィンという脳内物質が分泌される。これは別名「快感ホルモン」と呼ばれており、ストレスの発散に役立つ。さらに集中力が高まり、脳が刺激されることで、ボケや物忘れなども防止。自律神経失調症や心身症、神経症、ストレスによる頭痛や睡眠障害の改善も

期待できる。

④ 長生き効果

1998年、米国の医学誌に「日頃よく歩く人は死亡率が低い」という疫学的調査が発表された。歩くことで肥満を解消すれば、高脂血症や糖尿病といった生活習慣病も予防できる。まさに、一石四鳥の健康習慣といえる。

ヨーロッパで2010年におこなわれた調査では、1,449人を20年にわたって追跡した結果、適度な運動をしている人は、していない人よりも、アルツハイマー病の危険度がおよそ3分の1になっていることが明らかになった。

なお、予防効果が見られたのは、1回20分以上の、ちょっと汗ばむ程度の運動（有酸素運動）を週に2回以上おこなっている人たちであった。

このウォーキング、習慣にして毎日おこなうのが最適であるが、仕事があったり、子育てや家事があったりと時間を作ることが難しい場合、どうしても活動できる時間は夜に限られてしまう。しかし、この小矢部市は市街地以外は街灯も少ないため、暗い。加えて、農業が主産業であることから至る所に用水路があり、危険。暗い上に危険では、安心してウォーキングすることができない。

そこで、市内全体の道路に街灯を設置し、夜間でも明るい街を目指してみればどうか。夜間でもウォーキングに取り組むことができるし、犯罪や事故も減少することが考えられる。もちろんウォーキングをする人がいなければ、ただ街を明るくしただけで終わってしまうので、啓発活動や指導する人間の育成などが必要である。



明るい街でウォーキング～

(2) マラソン大会の開催

近年、健康志向の向上により市民ランナーが増加してきている。それに伴い、各地で開催されるマラソン大会への参加希望者が非常に多くなってきている。先日開催された、東京マラソンにはなんと、定員3万6千人に対して、約30万3千人が参加申し込みをした。実に倍率約10倍である。

27万人弱の方々が抽選に漏れて走る機会を失ったことになる。当然、東京という土地での開催というブランド力はあるにしても、マラソン大会への参加意欲というものは、多くの人が持っているものと証明されたことになる。

■国内の主要マラソン大会参加者数と増加率

大会名	都道府県	2007年(人)	2009年(人)	増加率(%)
東京マラソン	東京都	95,044	261,981	+175.6
NAHAマラソン	沖縄県	26,286	33,906	+29.0
かすみがうらマラソン	茨城県	14,104	24,480	+73.6
青梅マラソン	東京都	18,124	23,281	+28.5
湘南国際マラソン	神奈川県	10,102※	20,831※	+106.2
東京・荒川市民マラソン	東京都	17,138	18,662	+8.9
いぶすき菜の花マラソン	鹿児島県	14,463	18,149	+25.5
サンスポ千葉マリンマラソン	千葉県	12,380※	17,895※	+44.5
名古屋シティマラソン	愛知県	17,597	17,287	▲1.8
つくばマラソン	茨城県	15,096	15,677	+3.8

※は参加者数、他は出走希望者数 出典:日本銀行鹿児島支店によるヒアリング調査

国内で2010年に開催された市民参加型マラソン大会は約1,500といわれている。日本陸連が公認した約50のフルマラソン大会で完走した市民ランナーは、2004年度は78,000人。2009年度は2.1倍の166,000人に増えている。

マラソンブームの背景としては、東京マラソン大会の影響のほか、①高齢社会が加速する中での健康志向の高まり、②手軽で安価に参加できること、③ウェアのファッション性向上に伴う女性ランナーの増加などが考えられる。

2015年には富山県においても北陸新幹線の開通を機に「富山マラソン2015」も開催されることが決定している。

このように若者を中心にマラソン大会の需要は高まりつつあり、それに参加するランナーも増え続けていることを受け、小矢部市においてもマラソン大会を開催してはどうか？

例えば、フルマラソンの場合、普段体を動かす機会が少ない人が、練習やトレーニングをせずに完走することは困難を極める。参加を決めたそのときから、トレーニングを始めることを決意するはずである。そして、大会への参加と完走をモチベーションに毎日トレーニングに励むはずである。

つまり、大会へ向けてのトレーニングを習慣化してしまえば、自動的に運動不足の解消となり、また前述のとおり認知症予防に繋がりが健康寿命の延命化へと繋がっていく。

他方で、このマラソン大会のもたらすもう一つの利点にも触れておきたい。それは、マラソン大会が街の認知度アップや交流人口の増加、消費活動増加に伴う需要拡大等に大きく役立ってくれる点である。実際、全国の自治体でも、このマラソンブームを好機と捉え、大会を通じての地域おこしに力を入れている。レース名に地域的特色を冠する、コースを観光地周遊型に設計する、参加賞や会場へのブース出展を通じて特産品を提供するなど、地域の活性化に繋げようと様々な取組をおこなうことが可能である。

また、大会の開催により飲食・宿泊支出などの経済効果も期待できる。大会当日は、多数のランナーや応援者が来訪し、地元のコンビニ、ファーストフード店、ショッピングセンターなどの売上が増加。日中は走り、完走のご褒美にアウトレットでお買い物といった若者もいるはずである。また、県外ランナーの参加により、宿泊施設の稼働率の上昇もみられるはずである。さらに、来訪者が地域に魅力を感じ、その地域を再び訪れる機会が増えることにより、継続的な地域活性化も期待できる。

5. まちづくり研究会としての提案

《市内七福神の周回ウォーキングコースを画策》

前述の夜間のウォーキングコースの設置には、街灯の整備や道路の整備等が必要で、マラソン大会開催には多くの労力と時間が必要であるため、期間限定のまちづくり研究会の活動として実施することは現実的に難しい。

そこで、まちづくり研究会としては、できるだけハード面の整備が必要なく、かつ、人的労力も掛からないで健康寿命を増進させることのできる適度な有酸素運動をする機会を増やすための提案をする。

平成 26 年度の新事業に、「おやべウォーキング」を実施する旨の報道がされていた（北日本新聞朝刊 2014 年 2 月 18 日 27 面）。報道内容によれば、「小矢部市の歴史・文化に触れ、その魅力を再発見するとともに、健康増進に繋げることを目的とする。」とのことである。コースは以下の通り。

「歴史国道八重桜」義仲・巴 進軍の道 ウォーク	約 8 km	5 / 11 (日)
「旧加越能鉄道 加越線」探訪ウォーク	約 7 km	7 / 20 (日)
「おやべ元気フェスティバル」おやべ メルヘンウォーク	約 5 km	9 / 20 (土)

こちらはイベントとしての開催であり、小矢部の歴史的な名所を見ることができ、郷土愛を育むこともでき、人との交流も生まれ、新しい出会いなどもあり、地域活性・健康増進を大いに期待することができると思われる。

そこで、普段からウォーキングを楽しむコースを設置して体力づくりをし、イベントとして上記のウォーキングに参加してもらうを増やすというのはどうだろうか。

我々、まちづくり研究会第 4 期生は、七福神にクローズアップしてその活用法も検討してきた。その活用法の一つに、市内の七福神を目的地としたウォーキングコースを設置し、巡礼者の増加を図るというものがある。コース詳細については、次のテーマである「七福神像を活かしたまちづくりについて」にて詳細に記載することとする。

得られる効果は、健康増進、交流人口の増、介護予防、観光地の活性化、七福神が浸透すればそれを活用した小矢部市の魅力発信、と多岐にわたる。健康寿命の延命はもとより、街の発展の一助まで担える可能性がある。看板の設置やパンフレットの作成など諸問題もあるかもしれないが、画策してみてはいかがだろうか？



七福神像を活かしたまちづくりについて

はじめに

1. 七福神と小矢部市の七福神像
2. 七福神めぐりの歴史
3. 富山県・石川県の七福神めぐり
4. 小矢部市の七福神めぐり（中間報告までの取組）
5. 先進地視察で得たヒント
6. 「おやべの七福牛」顔出しパネルの作製
7. 七福神像ウォーキングルート案
8. 小矢部市七福神スタンプラリー
9. 今後の課題

まとめ



はじめに

小矢部市には他の地域に誇れるほどの歴史や文化が数多く存在する。しかしそれらを市民が一体どれだけ理解し把握しているだろうか。小矢部市民がまずもっと小矢部市を知ること、地域に対する愛着や誇りを育むことに繋がり、ひいては小矢部市の活性化に繋がるはずである。現在、そのための対策が様々な手段でなされているが、その中でも小矢部をよく知るための一番の方法は、実際にまちを巡り体験することであると考えられる。

その点に重点を置き、新たな切り口で小矢部市を散策する方法を課題として挙げる。

小矢部市には、これまで6体の七福神像が市内各所に設置されていた。平成24年7月5日に布袋尊像がクロスランドおやべに寄贈され、市内に七福神がそろった。これを機会に、市民が七福神を目当てにまちを散策し、小矢部をもっとよく知るための手段として、また新たな観光資源として、小矢部市の活性化に役立てたいと考えた。

1. 七福神と小矢部市の七福神像

●寿老人像（昭和4年12月建立、場所：嶺地内こうもり洞窟への三叉路）

道教の思想では、寿老人は「老子」の化身の神様である。持っている杖には長寿の秘訣を記した巻物を挟み、信仰する人に長寿の宝を授ける。長寿、人徳の神様。

建立の理由は不明である。



●弁財天像（昭和55年6月建立、場所：鼓ヶ滝）



七福神の中の紅一点で元はインドのヒンドゥー教の女神であるサラスヴァティー神。水・河の女神。水の流れは話術や音楽などにたとえられ、そこから音楽、弁舌、才知の神様として親しまれるようになった。すべての人に愛情と知恵、親切を授けるといふ芸道富裕の神様。

市の観光地整備事業の一環として建てられた。

（写真は「ふるさとガイドおやべ（小矢部市）」より引用）

●恵比寿像（昭和 60 年 6 月 建立、場所：小矢部河川公園沿いの市道横石動大橋）

古くは「大漁追福」の漁業の神である。時代と共に福の神として「商売繁盛」や「五穀豊穰」をもたらす、商業や農業の神となった。唯一日本由来の神様。

戦前、小矢部川による伏木港との運送が盛んであったことに因んで建てられた。



●毘沙門天像（昭和 60 年 10 月 建立、場所：埴生大池公園）



元はインドのヒンドゥー教のクベーラ神である。戦勝祈願、仏教守護という性質から、国土守護の軍神。宝物、財物、幸運などを恵む神様としても広く信仰を集めている。

建立の理由は不明。

●大黒天像（昭和 61 年 9 月 建立、場所：津沢記念公園）

インドのヒンドゥー教のシヴァ神の化身マハーカーラ神である。元は怒りの神様。現在は招福の神であり、台所や、財宝、食料を司る。大黒柱の語源。開運招福・五穀豊穰・災難消滅を守護し、福德、財宝を与える神様。

かつて加賀藩の御蔵が立ち並び、栄えたことに因んで建てられた。



●福祿寿像（昭和 61 年 11 月 建立、場所：寿永荘付近）



「福＝（幸福）」、「祿＝（幸運、身分）」、「寿＝（寿命）」をあらわしている。

背が低く、長い頭に長い髭、巻物を結んだ杖を持ち、長寿のシンボルともいえる鶴を伴っている。人間の寿命を管理する神仏で、人望厚い福德の神様。

建立の理由は不明である。

●布袋尊像（平成 24 年 7 月 建立、場所：クロスランド小矢部）

唐の末期の明州（現在の中国浙江省寧波市）に実在したといわれる禅僧、「契此（かいし）」がモデル。中国では弥勒菩薩の化身として信仰されている。

七福神のうち、長い間布袋尊像だけがなかったことを受け、民間から寄贈された。



位置図



2. 七福神めぐりの歴史

七福神信仰は室町時代頃からあったそうだが、メジャーな民間信仰として地位を築いたのには、一説には次のような話が伝わっている。

江戸時代、時の天下人徳川家康に対し、上野寛永寺の開祖天海僧正が、「あなたは長寿、富財、人望、正直、愛敬、威光、大量の七福を備えられ、天下統一という偉業を成し遂げたが、これは、神仏では、長寿＝寿老人、富財＝大黒天、人望＝福祿寿、正直＝恵比寿、愛敬＝弁財天、威光＝毘沙門天、大量＝布袋、の徳を表している。これら七福神を祀れば、七難即滅、七福即生は間違いない」と七福神の七つの福德が人生にとって大切であることを語った。家康は絵師に七福神の絵を描かせて祀った。描かれた七福神は評判となり、模写して全国に宣伝された。そして、正月に拝して一年の幸せを祈るようになり、庶民、大名問わず、広く七福神が信仰されるようになった。

しかし、人心を鎮めるための家康の行政の一環として、七福神信仰が採用され、それが始まりなのだ、という説もあり、真実はいかがなものか、謎である。

江戸の終わり頃になると、これらはより全国的に広まり、商売繁盛、無病息災、家内安全など、庶民のさまざまな願いを込めて各地で七福神参りが行われるようになった。現在は、七福神めぐりをハイキングのような感覚で楽しむ人もいる。村おこし、町おこしの一つとして、全国的に七福神霊場が作られている。

3. 富山県・石川県の七福神めぐり

(1) 富山県

- ① 高岡市を中心とし万葉ラインを利用するコース。推定所要時間 1日
近畿日本ツーリストが、平成24年3月1日(火)～11月30日(水)の月～金曜日に、大人ひとり 8,800円、子どもひとり 8,000円(小学生)で、下記寺・神社の5か所をめぐるツアーを行っていた。また、岐阜県の旅行会社にて、高岡、射水、氷見の3市の寺社を巡礼する観光コース「越中万葉七福神巡り」ツアーが、平成25年10月29日(火)～30日(水)に行われた。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ・千手寺(寿老人、氷見市) | ・新湊弁財天(弁財天、射水市) |
| ・西宮神社(恵比須尊、射水市) | ・弘源寺(毘沙門天、高岡市) |
| ・総持寺(毘沙門天、高岡市) | ・関野神社(大黒天、高岡市) |
| ・佛石寺(福祿寿、高岡市) | ・妙法寺(布袋尊、高岡市) |

② 砺波市の七福神（平成 26 年 3 月 8 日の北國新聞における情報）

砺波市の歴史愛好家や会社役員が平成 26 年 4 月、「となみ『散居の里七福神めぐり』の会」の実行委員会を発足させる。七福神は、真言宗の古刹千光寺にある福祿寿など砺波市内の 7 寺社から各一休ずつ選んだ。各寺社にスタンプを置き、イラスト入り台紙に押しながら、七福神詣でをしてもらう。台紙は 1,000 円程度で販売し、七福神が置かれている寺社のいわれを書いた七福神帳も発行する。

(2) 石川県

① 和倉町のコース

- ・ 和倉町和倉弁天神社（寿老人）
- ・ 湯元の広場（恵比寿）
- ・ 和倉町湯元の広場（大黒天）
- ・ 青林寺（布袋）
- ・ 弁天崎公園弁天社（弁財天）
- ・ 少比古那神社（毘沙門天）
- ・ 信行寺（福祿寿）

② 能登半島のコース

- ・ 豊財院（寿老尊、羽咋市白）
- ・ 東嶺寺（恵比寿天、七尾市）
- ・ 長齡寺（大黒天、七尾市）
- ・ 青林寺（布袋尊、七尾市）
- ・ 海門寺（弁財天、七尾市）
- ・ 大覚寺（毘沙門天、七尾市）
- ・ 龍護寺（福祿寿、羽咋郡志賀町）

4. 小矢部市の七福神めぐり（中間報告までの取組）

全国的には、寺や神社に七福神像があることが多い。小矢部市はまちに同化して像があり、地域に根差していることに好感が持てる。富山県ではツアーが企画されているほどであり、七福神は観光資源であることが証明されている。これをうけて、観光化へ向けての今後の取組案を考察した。

(1) 七福神に特化した観光マップの作成

各七福神設置箇所に、案内看板、説明を記した立て看板を立て、観光地化する。また、イラスト付き観光マップを作成し、誰でも気軽に訪れることができるようにする。

(2) ホームページの作成

小矢部市のホームページから、あるいは小矢部市観光協会のホームページから、観光マップや各七福神の簡単な説明を閲覧できるようにし、市内外にPRする。

(3) 七福神スタンプラリーの実施

七福神をめぐるスタンプラリーを開催する。各地点には御朱印が用意されており、専用の色紙に御朱印を集める方法でスタンプラリーを楽しむ。また、七福神にまつわるクイズや、その地方にまつわるクイズが用意されており、楽しみながら巡ることができる。「パワースポットめぐりで運氣上昇」を強調する。

スタンプラリーにより7つの御朱印を果たした方には、もれなく「おやべの七福牛」特製グッズを進呈し、抽選によりさらに小矢部の特産物を進呈する。副賞を設けることにより、参加意欲を掻き立てる目的がある。

(4) 「おやべの七福牛」グッズの販売

メルギューの七福神バージョンのデザインを作り、キーホルダーやストラップ、缶バッジなどのグッズ販売を行う。これにより、小矢部の七福神の存在や、スタンプラリーの存在を知ってもらえ、参加者の増加にもつなげる。

「おやべの七福牛」デザイン作成 (U Project 株式会社)



毘沙門天



弁財天



布袋尊



寿老人



大黒天



福祿寿



恵比寿

5. 先進地視察で得たヒント

足利七福神（栃木県足利市）

- 通6丁目巖島神社（長尾弁天） 所在地：通六丁目 3177
- 常念寺（毘沙門天） 所在地：通七丁目 3094
- 福巖寺（布袋尊） 所在地：緑町一丁目 327



長尾弁天



毘沙門天



布袋尊



足利市では、10～20年前に七福神をPRしだしたそう。各社寺には、共通の足利七福神のぼりや、足利七福神の場所と由来等を示した案内看板が設置されていた。また、足利七福神めぐりガイド（案内マップ）も作成されており、各七福神の傍にスタンプ台が設置されていた。駐車場の整備もされており、ウォークラリーが楽しめる

ようにも整備されていた。小矢部市も七福神をPRして行くのであれば、同じくらいの整備が必要である。

七福神像を前面に押し出して広報しているのではなく、地域に密着した七福神像をひっそりと紹介している程度にとどめていることが、落ち着いて住民の散歩コースにはよい印象を受けた。しかし、七福神像が目立つ場所がないため、像の場所をあらかじめ知らない観光客は、看板を見つけても像に気付かない可能性がある。例えば、常念寺はお堂の中に毘沙門天がおり、春夏秋は隣接する保育園に声をかけないとお堂の中に入れない。それら詳細についてはマップに記載されていないため、像が見つからず場所を間違えたかと思ったくらいである。常念時では管理者（保育園）にお話を伺える点が評価できる。平成25年1月は4つのツアーが団体で来客したそうだが、年々団体客は減少傾向にあるとのことだ。イベント等を企画し、来客の継続性を果たせることが大切だと実感した。

6. 「おやべの七福牛」顔出しパネルの作製

小矢部市では、北陸エリア初となる本格的アウトレットモール、三井アウトレットパークを誘致する。着工は平成 26 年度、開業は平成 27 年度を予定している。アウトレットモールの高い集客力によって市内に人々が集まるこの機会を活かし、小矢部市の七福神像をPRできないかと考えた。そこで、小矢部市まちづくり研究会では、デザインした「おやべの七福牛」を使用した顔出しパネルを作成し、小矢部市の顔である石動駅に設置して、市外から来られた方に七福神像についてPRしようと考えた。考案した顔出しパネルは、縦 2m、横 1.6m の、宝船に乗ったメルギューくん、メルモモちゃんたちである。裏側のスライドを引くと、弁財天と恵比寿の顔の部分にくり抜かれた丸い穴が現れ、そこから顔を出すことができる。

予算が限られている中でご協力いただいたのは、まちづくり研究会第 1 期生座長を務めておられた村上さんが経営しておられる、有限会社村上広告社である。パネル作製の全てを企業に依頼するのではなく、少しでも作製に携わることができないかをご相談し、一部のパネル作製を手伝わせていただいた。



平成 25 年 12 月 25 日（水）の 9 時 30 分から、「おやべの七福牛」顔出しパネル除幕式を JR 石動駅にて行った。除幕式では、桜井小矢部市長と JR 石動駅小川駅長のご挨拶をいただき、記念撮影をとった。



この除幕式はいくつかのメディアにも取り上げていただき、小矢部市の七福神像についてPRすることができた。

(2) 中級コース

- ① 石動駅周辺⇨小矢部河川公園（恵比寿像） 所要時間 約 40 分



- ② 俱利伽羅源平の郷 埴生口⇨寿永荘（福祿寿像） 所要時間 約 40 分

俱利伽羅源平の郷
埴生口



埴生護国八幡宮



- ③ 津沢コミュニティプラザ⇨津沢保育所周辺（大黒天像）

所要時間 約 40 分



(3) 上級コース

- ① 倶利伽羅源平の郷埴生口⇒倶利伽羅不動寺周辺（毘沙門天像）

所要時間 約 2 時間 30 分



- ② 道の駅メルヘンおやべ⇒寿老人像（赤ルート）
 ③ 道の駅メルヘンおやべ⇒弁財天像（緑ルート）

各所要時間 約 2 時間 30 分



8. 小矢部市七福神スタンプラリー

「7. 七福神像ウォーキングルート案」では、ルート設定をおこない、気軽にウォーキングできるようにしたが、なかなか七体をまわることができないだろう。

ぜひ七体制覇していただくためにも、小矢部市七福神スタンプラリーの実施を提案する。各像の付近に、クイズ看板を立て、スタンプとクイズの回答を書き込める台紙を観光マップと共に設置する。健康促進のためにウォーキングをしながらクイズにも答えて、もれなく「おやべの七福牛」グッズをゲット！など、キャンペーンを期間限定でおこなうのも楽しいのではないかな。

(1) クイズの例

① 毘沙門天像

問題：埴生大池は何のための池？

- A. 農業用 B. 防火用 C. 利用されていない D. 未だ謎

答え：A

② 弁財天像

問題：「鼓ヶ滝」の由来は、水の落下する音が滝のホコラに反響し、鼓(つづみ)を打つ音に聞こえることから、その名がつけられましたが、鼓を打つ音に聞こえるための条件とは？

- A. 風が強い日 B. 水量が少ない時 C. 気温が低い日
D. 心が清らかな時

答え：B

③ 恵比寿像

問題：この河川敷公園で毎年行われる小矢部市のイベントとは？

- A. 火牛祭り B. 盆踊り C. 花菖蒲祭り D. 恵比寿祭

答え：C

④ 寿老人像

問題：小矢部市の誕生は昭和 37 年 8 月。小矢部市の七福神の中で最も古い寿老人像は小矢部市誕生時すでに何歳だった？

- A. 1 歳 B. 17 歳 C. 34 歳 D. さすがにまだ建立前

答え：C

⑤ 大黒天像

問題：七福神の中でも、毎年この大黒天様の前でのみ執り行なわれている行事とは？

- A. 例祭 B. あんどん祭 C. 地鎮祭 D. 運動会

答え：A

⑥ 福祿寿像

問題：福祿寿は、3種の願いを具現化したものであるといわれているが、その3種とは、俸祿、長寿とあとひとつは何か？

- A. 裕福 B. 至福 C. 幸福 D. 大福

答え：C

⑦ 布袋尊像

問題：この像ができたことによって小矢部市に七福神が揃うことになったが、それはズバリ何年？

- A. 1924 年 B. 昭和 24 年 C. 平成 24 年 D. 今年

答え：C

(2) スタンプラリー台紙

みんなで歩こう

七福神スタンプラリー

クイズに答えて「おやべ七福牛」特製グッズをもらっちゃおう！

応募期間：平成26年〇月〇日～〇月〇日



スタートはどこからでもOK！
各像のところにクイズが出題されているよ。

クイズの答え

① _____ ② _____ ③ _____

④ _____ ⑤ _____ ⑥ _____ ⑦ _____

9. 今後の課題

小矢部市観光協会では、平成 25 年度中に七福神に特化した観光マップとホームページの作成を行う予定である。しかし、観光スポットとして機能するためには、今後、以下の点について整備が必要と考える。

- 各七福神像の近くに、七福神像の場所を記した共通の看板と、由来等を示した案内看板を設置する。
- 像の近くに駐車場をつくる。できれば観光バスが駐車できるくらいのスペースを確保する。
- 「おやべの七福牛」を積極的に活用し、七福神像のPRに使用する。例えば、キーホルダーやストラップ、缶バッジなどのグッズ販売を行う。

まとめ

小矢部市には多くの魅力ある観光スポットが存在する。また、平成 27 年に北陸新幹線が開通し、「(仮称) 三井アウトレットパーク 北陸小矢部」の開業が予定されており、小矢部市を訪れる観光客の増加が見込まれる。

ここで、アウトレットをはじめとする各場所で七福神像をPRし、積極的に観光スポットとして取り上げ、またデザインした「おやべの七福牛」を使って宣伝することで、新たな観光資源として定着していくと考える。さらに、散策を通して、小矢部というまち自身に興味を持ち、それが誇りや愛着を育むことに繋がっていくと考える。

各委員の活動を終えての感想

委員名等	感想
 <p data-bbox="209 629 357 680">みやた ともゆき 宮田 智行</p> <p data-bbox="209 707 268 739">座長</p>	<p data-bbox="485 271 1406 472">私が、小矢部市のまちづくりというものについて初めて考える機会となったのが、青年会議所運動の中でのまちづくり活動でした。また、協働のまちづくり会議の委員として小矢部市のまちづくりを考える機会もありました。しかし、小矢部市で生まれ育った私でしたが、それまでは、まちづくりには全く興味もなく過ごしてきました。</p> <p data-bbox="485 483 1406 819">そんな私が、あの、『まちけん』の座長なんて…。過去の座長の錚々たる面々。自分とは全く縁のない団体だという認識だけはありました（^^；当時の私は、（社）小矢部青年会議所副理事長、松沢児童クラブ会長、鷺島青年会会長、その他多くの役を受けている時で、第四子が生まれる直前でもありました。そのような状況で「まちけん座長」が可能なのだろうかという不安は多くありました。しかし、事務局の長太さん、委員の皆さん、そして家族の支えがあって何とかやってこられたと思っています。</p> <p data-bbox="485 831 1406 954">あっという間の1年半でした。青年会議所の事業とは全く違い、なかなか思うように進まないことがあったり、また、逆にやりやすかった面もあったりしました。</p> <p data-bbox="485 965 1406 1301">この研究会は、若い世代の考え方で、これからの地域のまちづくりについて市長に提案するものですが、何よりも市民と行政がともに一つのことを成し遂げるといふことの楽しさや、その重要性を知ることによりこの研究会の存在する意義があると思います。少しでも多くの若者に、こういった経験をしていただき、様々な事業・イベントを行うときには当たり前のように市民と行政が一体となって成し遂げていく、そういう若い人たちの活力のある雰囲気まちを魅力あるものにして行くのだと思います。</p> <p data-bbox="485 1312 1406 1648">研究の内容も市への提案として重要ではありますが、この活動を通して研究会のメンバーが得ることができるものは、将来的には必ずや小矢部市を活性化していくことにつながっていくものと確信しています。この先もちろん『まちけん』は5期生、6期生へと続いていきますが、少しでも多くの方に、この『まちけん』を経験していただき、小矢部市のまちづくりについて考えながら、本当の意味での「協働のまちづくり」により、小矢部市をさらに魅力あるまちになるように運動して行っていただきたいと思っています。</p>

委員名等	感想
	<p>「まち研」の活動を通して、市の職員の方やほかたくさんの方と知り合うことができ、また、小矢部市について、たくさんのことを学ぶことができました。このような機会を与えていただいたことに感謝しています。</p> <p>さらなる小矢部市発展のために、今後の「まち研」に期待しています。</p> <p>私も「まち研」が終わっても、小矢部市に貢献できるよう努めていきたいと思っています。</p> <p>今までありがとうございました。そしておつかれさまでした。</p>
<p>かがみ はるみ 鏡 晴美 副座長</p>	
	<p>1年半を振り返って、一番に思うことは「貢献できなかった」ということです。まち研の委員になったのに、仕事に時間をとられてしまい、全ての活動に参加できなかったことは、他の委員の方に申し訳ない気持ちでいっぱいです。しかし、このまち研の活動がきっかけで、小矢部についていろいろ考える時間ができ、有意義な2年間だったと思っています。</p> <p>今後は、自分のできる範囲で、小矢部を活発な「まち」にできればと思っています。</p>
<p>たかはし たけひろ 高橋 孟寛 委員</p>	
	<p>7人という少数で、どこまでの研究ができるのか不安がありました。しかし、事務局の長太さんを始めとする多くの方のご協力を受け、最後まで研究をやりきることができました。</p> <p>活動を通して、小矢部市をよく知る機会と、どのようなことを行っていけば発展していくのかを深く考える機会をいただきました。また、まちづくりに熱意のあるメンバーや、日置市職員まちづくり研究会の皆様など、素敵な人たちとの出会いもありました。</p> <p>このまちづくり研究会での貴重な経験を、今後の仕事に活かしていきたいです。</p>
<p>よしだ えりこ 吉田 恵里子 書記</p>	
	<p>まちづくりに関して専門的に学んだことも、携わったこともない状態からのスタートでした。その壮大な研究テーマに、初めは手探り状態で、最後は追い込まれるように取り組んだ1年半だったように思います。しかし、視察先で見たこと、聞いたこと、とある縁から実現した他市のまちづくり研究会との意見交換など、この活動を通して経験したことは日常にはない貴重なものでした。一緒に活動した委員、事務局のみなさんに感謝するとともに、小矢部市の未来が明るいものとなるよう微力ながらお手伝いしていきたいと思っています。</p>
<p>やだけ まさひで 矢竹 正英 委員</p>	

委員名等	感想
	<p>まちづくり研究会委員としての活動期間は、長いように思えましたが終わってみるとあっという間の1年半でした。</p> <p>7人という、第3期と比べると半分ほどの人数であったため、不安もありましたが、大変楽しく活動させていただきました。</p> <p>今後は市職員として、まち研で得た経験を仕事で活かしていけたらと思います。委員の皆様、お疲れ様でした。</p>
<p>ふくなが よしずみ 福永 圭純 委員</p>	
	<p>この1年半の間、すごい方々の間に挟まれて、ただただ居るだけのよう存在でしたが、参加者の皆さんのまちづくりに対する熱い気持ちを感じられて、非常に刺激的で有意義な時間が過ごせました。</p> <p>まち研委員のみなさんと一緒にまちづくりについて考えることで、いろいろな思いや考えを聞くことができ、まちづくりに対する考えを深めることができました。まち研での1年半は、貴重な経験でした。</p> <p>今後は、市職員として、市民として、まち研での経験を活かし小矢部市のまちづくりに貢献していきたいと思ひます。</p>
<p>ふじさわ ゆういちろう 藤澤 雄一郎 委員</p>	

先進地視察研修報告（平成 24 年度実施分）

1. 日 時

平成 24 年 11 月 18 日（日） 8 時 20 分から 19 日（月） 16 時 38 分まで

2. 視察先

(1) のと鉄道 西岸駅

所在地：七尾市中島町外

内容：アニメ「花咲くいろは」に登場する湯乃鷺駅のモデル（駅名標設置）

URL：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A5%BF%E5%B2%B8%E9%A7%85>

(2) のと鉄道株式会社

所在地：鳳珠郡穴水町字大町チ 24-2

内容：アニメファンの聖地づくり（ラッピング車両運行、駅周辺整備）、婚活支援

URL：<http://www.incl.ne.jp/ntr/>

(3) 春蘭の里

所在地：鳳珠郡能登町宮地 16-9

内容：限界集落における農家民宿、地域再生事業

URL：<http://shunran.info/>

(4) 金剛崎（聖域の岬、空中展望台スカイバード）

所在地：珠洲市三崎町寺家 10-11

内容：日本三大パワースポット（大地の気流と、南からの暖流、北からの寒流が波状的に集結する場所）、日本三大聖域（国引きの神話）

備考：珠洲岬は禄剛崎・金剛崎・遭崎の総称

URL：<http://www.rurubu.com/sight/detail.aspx?BookID=J0070985>

<http://www.lampnoyado.co.jp/blog/diary.cgi?no=79>

(5) 白米千枚田（道の駅千枚田ポケットパーク）

所在地：輪島市白米町八部 99-4

内容：海岸まで続く 1,004 枚（国指定部分の棚田）、あぜのきらめき（電源を自然エネルギーでまかなうイルミネーションイベント）

URL：http://www.hrr.mlit.go.jp/road/miti_eki/each_folder/senmaida_folder/senmaida.html
<http://semmaida.kuronowish.com/kirameki/>

(6) 珠洲市役所

所在地：珠洲市上戸町北方 1-6-2

内容：公共交通対策、空き家を活用した移住・定住対策、バイオマスタウン構想

URL：<http://www.city.suzu.ishikawa.jp/index.html>

(7) 七尾市役所

所在地：七尾市神明町 1

内容：高齢者対策事業、まちづくり基本条例

URL：<http://www.city.nanao.lg.jp/>

3. 行程

※P95 のとおり

庁用車（ランディ、8人乗り）、のと鉄道（西岸駅～穴水駅）にて移動

4. 参加者

委員 宮田座長、鏡副座長、吉田書記、高橋、矢竹、福永、藤澤

事務局員 長太

計 8 人

小矢部市まちづくり研究会(第4期生)先進地視察研修 行程表

平成24年11月18日(日)～19日(月)

《第1日目》

時刻	視察先等	視察内容等	距離累計(km)	所要時間(分)
8:35	小矢部市役所 発	8:20集合	0.0	
国道471・8・159号、能登有料道路(白尾IC→横田IC)、県道23号線、国道249号				
9:54	◆のと鉄道 西岸駅	アニメ「花咲いろは」に登場する湯乃鷺駅のモデル(駅名標設置)	82.3	25
10:19				
のと鉄道乗車(西岸駅→穴水駅)				
10:35	◆のと鉄道株式会社	アニメファンの聖地づくり(ラッピング車両運行、駅周辺整備)、婚活支援	93.0	67
11:42				
11:44	穴水町内の食堂	昼食	93.5	52
12:36				
県道262・1号線、国道249号、県道37号線				
13:05	◆春蘭の里 (春蘭の宿)	限界集落における農家民宿、地域再生事業	113.6	89
14:34				
県道37号線、国道249号、県道12・287・28号線(見附島、鉢ヶ崎経由)				
16:12	◆金剛崎 (空中展望台スカイバード)	日本三大パワースポット(大地の気流と、南からの暖流、北からの寒流が波状的に集結する場所)、日本三大聖域(国引きの神話)	168.6	28
16:40				
県道28号線、国道249号(道の駅すず塩田村、曾々木海岸経由)				
17:27	◆白米千枚田 (千枚田ポケットパーク)	海岸まで続く1,004枚(国指定部分)の棚田、あぜのきらめき(電源を自然エネルギーで賄うイルミネーションイベント)	208.4	23
17:50				
国道249号、県道6号線				
19:13	体験交流施設ラプロ恋路 着		242.4	

《第2日目》

時刻	視察先等	視察内容等	距離累計(km)	所要時間(分)
8:37	体験交流施設ラプロ恋路 発		0.0	
海岸通り市道、国道249号				
8:53	◆珠洲市役所	公共交通対策、空き家を活用した移住・定住対策、バイオマスタウン構想	8.6	116
10:49				
国道249号、県道26・288・57・303号線				
11:50	能登空港	昼食	48.6	54
12:44				
県道303号線、能登有料道路(能登空港IC→和倉IC)、田鶴浜道路、国道249号(七尾田鶴浜バイパス)				
13:35	◆七尾市役所	高齢者対策事業、まちづくり基本条例	98.5	110
15:25				
国道249・160号、県道70号線、能越自動車道(灘浦IC→福岡IC)、国道8号、県道32号線				
16:38	小矢部市役所 着		165.4	

5. 各委員の感想

(1) のと鉄道 西岸駅

宮田座長

「花咲くいろは」の一時的なブームは既に去っているであろうが、駅にアニメのポスターが数多く展示してあり、まだまだアニメに関しての集客があることを感じ取れた。無人駅でありながら、駅内には地元の農産物などが多く売られ、地元の人たちが集まってきており、活気のある駅だと感じた。



鏡副座長

- ・ほんとの「花咲くいろは」ファンがいなかったのが残念。
- ・モデルになった駅にしては、駅及び周辺の整備がされてないように思えた。

吉田書記

「花咲くいろは」のテレビの放映が平成 23 年 4～9 月であったそうだが、看板の設置は 4 月末だという。アンテナを張って、すぐアニメブームに乗ったところが功をなしたのではないか。アニメに忠実に、看板の劣化を表現したり桜の木を植えたりしている。アニメを見ていない私でも、ポスターを見て思わず「一緒だ。」と思った。小矢部市を舞台としたアニメがあれば、すぐブームに乗かってみる価値はあるかもしれない。

高橋委員

西岸駅には地元で採れた野菜等を販売しており、地元の方々と交流ができる。

矢竹委員

- ・モデルとして登場するアニメを見ていないことから、比較等はできないが、劇中と同じ看板を設置するなどの工夫があった。
- ・朝市や販売所として駅を利用しているためか、無人駅（おそらく）の割には人があふれていた。
- ・どのような団体に、どのような方法で駅のスペースを貸しているのか聞けなかったが、空きスペースの有効利用、場の提供という効果は期待できるのではないか。



福永委員

- ・実際の駅名の看板よりも、劇中の看板を模した物の方が目立つ位置に立っていました。
- ・のと鉄道株式会社でお伺いした話では、放送開始と同じ月に設置したとのことで、フットワークの軽さを感じました。

藤澤委員

いわゆるアニメの舞台になった聖地であった。現地には看板があり、駅舎内にはポスター等のパネルなどがあった。

(2) のと鉄道株式会社

宮田座長

一つの企業として様々なイベントを行うなど、人を集める工夫をされていること、そしてそれが新しく次々に展開されていることに驚いた。また、企業単独で行うだけでなく、県や町と連携することにより、能登全域での相乗効果が出ていることに感心した。第3セクターに切り替わる時の様々な集客のアイデアをしっかりと実際に行動に移していること、そして社員の方々も次々にアイデアを出し続けていることが結果を出している理由だと感じた。



鏡副座長

西岸駅とは違い、駅周辺の整備も行い（特に、トイレがすごいらしい！）多くの集客を見込んでの対策を行っているが、個人的には金沢からの移動が面倒なのが問題かと思う。

運営会社が違うので何とも言えないが、改善できるものであれば乗り換えなしで穴水まで行ければ、外部からの集客だけではなく定期利用者の増加につながるのではと思う。平成25年に「花咲くいろは」が映画になったら、もう1回行ってみたいです。

吉田書記

アニメブームに乗っかってのラッピング列車やアナウンスの改定だけでなく、廃線を利用した「あつあつ亭」や「運転体験」など、電車に乗ってもらうためのイベントが多くなされていた。廃線というマイナスを、プラスに変えるための利用法として、「運転体験」は素晴らしい発想だと思った。

小矢部市がアニメブームに乗っかるには、全国的にテレビ放映や映画やゲームの舞台として取り上げられないと効果は薄いのではないか。そのようなアニメ等があれば、乗っかる価値はあると思う。しかし、もしなくて、一からアニメを作るとしたら、現在木曾義仲のオーディオドラマがネットで公開されているので、これが切り口になるのではないかと思う。

それよりも、小矢部市にとっての「運転体験」のような、今ある素材に少し手を加えることで外から注目されるようなイベントが作れないか、現在いい案は持ってないが、そこに注目して今後考えていけたらと、個人的に興味を持った。

高橋委員

アニメ「花咲くいろは」で話題を呼び、乗客数は増えたが、現在利用者は減少している。利用者を増やすため、「イベント列車」の運行を行っている。利用者の誘客はもちろん、地域の方々との交流も深めることができることが良いことだと思った。

矢竹委員

- ・ 33 km、8 駅を運営するのに 37 人の社員（役員、臨時含めて）は正直少ないと思った。とはいえ、どれくらいの人員が一般的かは分からないので何とも言えないが、人件費等の問題はあろう。
- ・ 何はともあれ、利用客の増加、安定が第一ということで、いろいろな方策を考えているということが伝わってきた（あつあつ亭、運転体験、イベント列車等）。



- ・ アニメに登場するモデルとなったことについては、特に売り込んだというわけではなく、県が積極的だった模様。ただ、過去にも映画やCMで使われた経緯があり、使い勝手の良さがあるのではないかとのこと。
- ・ 車内アナウンスに、アニメの声優を利用するなどの取組を行う。ただし、アニメの効果がどれくらい続くかは不透明。

- ・穴水駅周辺の整備として、行政の協力でトイレを整備したとのこと。ただ、一方的に支援を受けるだけではなく、県や町から応援してもらえるような取組を行い、互いに好循環な関係を築くことが大切とのこと。結果として、のと鉄道の魅力アップ。
- ・駅の整備をすることで、車での利用者も受け入れ、「道の駅」的な効果も期待しているとのこと。

福永委員

- ・年間の利用者数 70 万人に対して、聖地巡礼に関する利用者 0.9 万人と、そこそこの効果があると感じました。
- ・アニメ放送後の集客効果は非常に大きいですが、やはり時間が経てばその効果も落ち込んでくるとのこと、いかに集客をキープできるかが大事であると感じました。
- ・のと鉄道の場合は、舞台となったアニメが映画化されるほど人気のあるものなので、継続的な集客が期待できると思うのですが、放送終了後に新しい話題がない作品の場合、どこまで効果が継続するのか気になります。

藤澤委員

- ・のと鉄道株式会社の山下社長に説明いただいた。会社の概要から取組等について詳しく説明いただいた。
- ・アニメ「花咲くいろは」のラッピング車両や社内アナウンスの導入などには、同アニメの集客力の期待の大きさを感じた。
- ・独自の取組として、運転体験や冬の誘客「あつあつ亭」、ビール列車、トンネル内イルミネーションなどのオリジナリティある企画は少しでも乗客を増やそう、認知してもらおうという企業努力を感じた。

(3) 春蘭の里（農家民宿 与助、宮地交流宿泊所こぶし、寄り道パーキング「春蘭の里」、特産品販売所・小水力発電・電気自動車重電スタンド）

宮田座長

何よりも、地元の年配の方々のパワーが凄かった。次から次へと事業を拡大して行こうとする意気込みで圧倒された。なんとかして地域に今あるものを生かしながら、自分たちができることを最大限に発揮している感じを受けた。能登地域の世界農業遺産の認定も追い風に、さらに補助金もうまく使いながら、



これからまだまだ多くの事業展開がされていくように感じた。また、今あるものだけにとどまらず、水力発電や電気自動車充電スタンドなど、新しい社会の技術にも常に目を向けて、地域に取り入れようとしている姿勢にも驚かされた。



鏡副座長

- ・家が立派。
- ・民家のおばあちゃんが運転免許を 70 歳で取ったとお聞きし、元気な高齢者が大勢いらっしゃるんだと思う。春蘭の里自体もとても元気なイメージを持った。
- ・若い世代の方々にも民宿を受け継いでいただき、もっともっと元気ある春蘭の里を期待したいと思う。

吉田書記

高齢化社会による労働人口の減少が問題となっている現代において、元気な高齢者がまちづくりのために立ち上がったということは、とても素晴らしいと思う。ただし、真似をするには長期にわたる経営が必要なため、お金や同志や意思が多く必要になる。雪が積もる冬は客が少なく、副業がないと子育て世代には暮らしが厳しいのではないかと感じた。経営的な課題が多く、年金生活者なら何とかなるが、今のまちづくり研究会である私たちにとっては不向きな研究テーマだと感じた。それだけに、何もないところからここまでの軌道に乗せて経営をしてきた春蘭の里は、尊敬に値する。

高橋委員

農家の家に宿泊し、良いことはあるのかと思っていたが、春蘭の里は自然豊かで、宿泊者の食事は春蘭の里で採れたものしか出さないというこだわりがある。こだわっている点が、利用者の増加に繋がっていると思う。



矢竹委員

- ・住民による地域活性化策の成功例。7人からスタートしたものが、これだけの規模（農家民宿 40 軒、石川県グリーンツーリズム促進特区等）にまでなるのはレアケースではないか。また、立ち上げから 16 年経った今でも、熱が冷めていない印象を受けた。

- ・ 各種の制度、補助金等をうまく使っているんだらうなという印象。役に立つ、有効な使い方。
- ・ 行政は異動があるため、専門的な職員が育たないとも。

福永委員

- ・ 農家民宿を目的に視察へ行きましたが、農家民宿の他にも廃校を利用した宿泊施設や産品販売所、小水力発電など、様々な施設を視察することができました。
- ・ 行政の補助金などをフル活用しているが、行政に頼らずに自分たちで地元を活性化しようという住民の方の意欲を感じました。

藤澤委員

- ・ 一見、山間の過疎の進んだ田舎だと感じたが、平成 23 年は 5,000 人余りの実績、平成 24 年は 10,000 人程の来場予定と聞き大変驚いた。
- ・ 客層は、関東 3 割、関西 3 割、その他 3 割、地元 1 割とのことであった。やはり、都会の方では「田舎」は魅力の一つであるのかもしれないと思った。
- ・ 春蘭の里実行委員会の構成員の平均年齢が 63 歳とのこと、やはり説明していただいた多田氏の「元気な年寄りが村を元気にする。」という言葉に説得力を感じた。

(4) 金剛崎（聖域の岬、空中展望台スカイバード）

宮田座長



やはりパワースポット（日本三大聖域）というだけあってか、現地ではテンションがかなり上がった。その場に行ったものにしか味わえない、迫力のある潮騒のサウンドと幽玄の世界がそうさせたのだろう。スカイバードの「征服感」「恐怖感」「臨場感」を味わえる建築的デザインと機能はもちろんのこと、これまで誰もが到達することができなかった、能登半島最先端や

望気楼跡へもたどり着ける、「天空の橋」ができていることも、観光客が多くなっている要因であると感じた。今回は時間がなかったが、この聖域の岬周辺だけでも、かなりの時間を費やせる程のポイントが存在している。

鏡副座長

帰ってから気付いたが、空中展望台で満足してしまい、最先端の聖域の岬に行っていなかった。おかげでパワー不足です。

吉田書記

確かに美しい風景だが、あのような景色は能登半島にごろごろ存在している。その中で、金剛崎を全国から注目させたのは、きちんとした理屈のあるパワースポットという宣伝効果だと思う。綺麗に整備されていて、入場料が発生するのも納得できる。ただし、小矢部市の観光化促進のために市内のパワースポットを宣伝するのは、パワースポットとしての裏付けがきちんととれない限り、根拠が弱い個人的是にはどうかと思う。

高橋委員

「日本三大聖域の一つ」ということで、とても魅力的だった。展望台や宿泊施設のランプの宿等、建物のデザインも金剛崎と非常に合っていた。魅力的な自然を活かして観光客を集めているという印象だった。

矢竹委員

- ・パワーを感じた。
- ・曇り空、強めの風といった天気だったが、暖かな良い天気の時に行ってみたい。



福永委員

- ・「無気流地帯」と呼ばれているようですが、風が強く寒かったです。
- ・パワースポットとなる謂れを聞かなければ普通の崖のように見えたが、いろいろと理由付けすることでうまく観光地化していると感じました。

藤澤委員

- ・日本三大パワースポット、日本三大聖域だけあって何か神々しさを感じた。
- ・11月中旬は海からの風も強く気温も低かったので、とても寒かった。

(5) 白米千枚田（道の駅千枚田ポケットパーク）

宮田座長

この千枚田は、昔からの自然環境とともに引き継がれてきた地元住民の成果であり、それを後継者不足などの問題点の対策として「オーナー制度」という新しい継承の仕方を取り入れたことは、近年の千枚田の大きな進化だと思う。先日、ギネス認定されたイルミネーションイベントに関して言えば、多くのボランティアの手が加わっており多くの労力が費やされ

ているにもかかわらず、それ以外に他の便乗するイベントなどが行われていなかったことを考えると、直接の収益には結びつかない事業ではあると感じた。ただ、その中でも、見に来た観光客が能登地域で宿泊するという間接的なメリットを含めると、千枚田のこれからの生き残り方の方法としては、一つの手段ではあると感じる。



鏡副座長

- ・とてもきれいだった。
- ・うまく有効利用されていると思う。

吉田書記

イルミネーションは電気代が掛かり、維持が大変だと聞いたことがある。太陽光発電を使い、同時に世界新記録にも挑戦することで、

メディアの注目を集め宣伝効果が期待できたのではないか。地元の人も楽しめて、地元の素材を活かして観光化につなげた成功例であるように感じた。イルミネーションの中にひっそりとしたハートマークを見つけて、テンションが上がった。そのようなちょっとした演出もにくい。

高橋委員

小矢部にも棚田はあるが、棚田をライトアップするアイデアが良いと思った。とても綺麗で、なおかつ無料で見ることができるので、観光客が多い理由が分かる。

矢竹委員

- ・暗くなってからしか見てないので、イルミネーションが綺麗だったという印象しか残っていないが、千枚田ということで季節ごとに風景が変わるんだろうな。
- ・農作業風景を見たり、食べたりしてみたいと思いました。

福永委員

- ・日が落ちてから現地に到着しましたが、非常に美しく感動しました。
- ・綺麗に舗装された道沿いにイルミネーションが丁寧に設置されており、毎年無償で設置を行う地元住民の方に掛かる労力はかなり大きいだろうと感じました。
- ・私たちの他にも観光客がたくさんおり、集客効果は大きいと感じました。
- ・千枚田には入園料など無く無料で見ることができるため、観光客による周辺への経済効果がどれ程あるのか調べてみたいと思いました。

藤澤委員

- ・千数百枚の棚田のイルミネーションは圧巻だった。
- ・来場者も多数見られ、集客力に驚かされた。

(6) 珠洲市役所

宮田座長

空き家を利用した移住・定住対策では、しっかりと考えられたシステムで行われている点では感心したが、しっかりとしたシステムを構築している割には移住・定住の効果が薄いのではと思う。あくまでも移住や一時的な住まいをする人のための住居にすぎず、根本的に地域に魅力があって移住してくれる人を、いかにして増やすかが重要



だと思う。ただ、荒地にしてしまうよりはましと言う考えであれば、一石二鳥的な考えで良い方法ではある。それにしても住めない空き家が多過ぎるのは解決し難い問題点である。

バイオスタウン構想もしっかりとしたシステムが構築されているようで、これからの時代はどの地域も考えていけばよい課題であり、第一歩のいい見本であったと思う。

鏡副座長

定住・移住を考える方々に対して、空き家バンク制度により家の確保はできるが、仕事がないとの説明からも、雇用の確保をどこまでできるかがやはり課題だと思う。

短期雇用を見込んで、ちょい住制度の空き家をもう少し増やした方がいい気もするが…。

吉田書記

空き家利活用のちょい住み事業については、前から興味があった。定住促進に繋がるならやる価値はあると思っていたが、様々な課題があることが分かり、そう簡単にはできないようだと思った。バイオスタウンも含め、市のやっていることを参考にして小規模団体がまちづくりを行うのは難しいと感じた。

ただ、バイオスタウンの1つの制度として、エコポイント制度がある。廃食用油の回収や生ごみの分別に参加した場合などにもらえて、ポイントがたまると商品券と交換できるらしい。それについては、普及啓発を目的とする他の事業にも応用できると感じた。

高橋委員

空き家利活用事業では、市外・県外の方々が空き家を借り、そのまま珠洲市に定住する方もおられるので、若干ではあるが人口増加に繋がる。小矢部にも空き家があると思うので、うまく活用できればなと思った。

矢竹委員

- ・ 宅地建物取引業組合に調査、物件問い合わせ対応等を委託することで、単なる物件情報の紹介に終わらず、実践的な制度だなと思った。ただし、輪島市に不動産業がない(確か)、民業との競合がないといった要因はあるのかと思う。
- ・ 移住を検討している人向けの、ちょい住み制度があるのは面白いと思った。
- ・ 若者や移住者の定着のためには、住まいと仕事が必要とのこと。
- ・ 珠洲には市有のバイオマスメタン発酵施設や、竣工したばかりの北陸電力のメガソーラ施設があるということで、今回は話を聞くだけに終わったが、機会があれば見てみたい。



福永委員

- ・ お話をお伺いしていると、珠洲市役所が全国で(北陸で)〇番目に実施した、といった事業が多く、先進的な取組に対する珠洲市の意欲を感じました。

藤澤委員

- ・ 空き家利活用事業はとても興味深いものであった。誰も住まなくなった空き家を、第三者に賃貸もしくは売買するものであるが、行政は人口増にも繋がるし、財産処理に困っている家主も助かり、転入者も新築の負担が無いし、アパートやマンションではなくその地に入って生活できる。転入を考えている人にすれば、いわばリハールもできるので誰も損をしない、とても有益な事業だと感じた。ただし、個人の財産を扱うものなので、法令等の整備が大変であろうと思った。
- ・ 部屋に差し込む太陽光がとても強いと思っていたら、ちゃっかりメガソーラーを設置していた。風力発電も 30 基設置しているとのこと、クリーンエネルギー発電の先進地であると思った。

(7) 七尾市役所

宮田座長

高齢者対策事業や、まちづくり基本条例など、市全体が自信と誇りをもって事業を展開している印象を受けた。高齢者対策事業は、一見どこの地域でも行っていることのように思えるが、話を聞くと、やはりもっと綿密に計画され、地域一体となって取り組んでいるのだと感じた。だからこそ、高齢者も子どもも住みよい街にランキングされているのだろう。

高齢者が増えていくことは当たり前のことで、問題ではなく、いかに介護が必要な人を減らすかということに重点を置いている考え方は、いかに市街からの移住を増やすかを考えている小矢部よりも先を行っていると思う。

まちづくり基本条例はまだ施行されたばかりであり、これからのところはあるが、しっかりと議論を重ね、七尾市に合ったモノにしてあると感じた。「作成過程が人材育成の場となった。」という言葉は、非常に印象に残った。基本条例があればいいとかいうものではなく、作成する過程から、既に官民一体のまちづくりが始まるんだと気づかされた。

鏡副座長

七尾市が「高齢者が住みよい街ランキング」の上位に入っているのは、説明を聞いていると納得させられるものがあった。

小矢部市も含めて他市の状況が分からないが、支援等の活動が活発に行われていると思う。今後は、病気にならない、介護を必要としない高齢者になるように、予防に力を入れられるとのことなので、少しでも介護保険料の減少につながれば、もっと住みよい街になるのではないかと思う。



吉田書記

高齢者対策について、医師数や介護施設の定員数が充実していることは素晴らしい。ただし、「一番大切なことは、生活習慣病や認知症などの予防策である。」とおっしゃっていたことが印象に残る。

「デイサービスのイベントは女性対象のものが多く、男性向けのものは少ない。」と母が言っていたことを思い出した。祖父は、最初はあまりサービスを受けたがっていなかった。それは、利用者について女性が多いことと、男性向けのイベントが充実していないからではないか。それが、男性の閉じこもりを生んでいるのではないかと、当時私は考えていた。

話は違うが、子育て支援センターについても、利用者は母親が多い。父親を対象としたイ

イベントを行っても参加者が少ないと聞いたことがあるが、その辺を打開するようなイベント（例えば、父母子で参加し、母がアロマ、父子でふれあい活動を行うといったイベントを企画して、母親に父子の参加を促してもらうようなイベントなど）を企画するというのも、面白いかもしれないと感じた。

高橋委員

高齢者の住みやすさ全国4位（人口当たりの医師数、介護施設の定員数が多いから）で、なおかつ「元気な高齢者」を目指し活動しているので、高齢者が活発的なまち。元気な高齢者・介護が必要な高齢者に合わせた活動・サービスがあり、高齢者にとっては住みやすいまちなので、参考にすべきだと思った。



矢竹委員

- ・まちづくり基本条例制定のきっかけに、地方分権、少子高齢化の中で多様化する地域の課題や要望に行政が応えられなくなってきていることがあるというのは、多かれ少なかれの自治体にも当てはまるといった。
- ・ただし、条例を作ることが目的ではなく、まちづくりのツールのひとつ

として、市民、議会、行政で共通のルール、イメージを持つことが大事だとのこと。

- ・市民側の推進組織である「まちづくり推進委員会」を設立し、解説書の作成や公民館等での説明会を実施しているとのこと。目的、趣旨を正しく理解してもらうことが第一か。
- ・高齢者の住みよい街ランキング4位の要因は、人口当たりの医師数や介護施設の定員数とのこと。施設、在宅サービスが充実している反面、介護保険料も県内1位となっており、負担も大きくなっているのが問題。
- ・病気にならない、介護を必要としない生活を送れるよう、予防に重点を置いて取り組むことが必要とのこと（元気な高齢者になってもらう）。これは、小矢部市にも当然あてはまることで、現在、小矢部市で取り組んでいることを調べてみようかなと思った。
- ・パンフレットが綺麗だった。

福永委員

買い物弱者に対する支援事業について、買い物弱者側に対する働き掛けだけでなく、販売する側にも移動販売車の購入費用等を助成するという点が興味深く感じました。

藤澤委員

- ・週間東洋経済において「高齢者が住みよい街ランキング」で4位となった要因が、人口に比べて医療機関が多い、介護施設が充実しているということであったが、施設面だけでなく、高齢者対策事業も多いと感じた。特に、高齢者交流活動や介護予防交流活動に補助金を出して、仲間づくりのきっかけを創出していることは素晴らしいと思った。年を取ると閉鎖的になりがちだが、こういった事業を通して新たな仲間を作ったり、生きがいを作ったりすることになれば、高齢者が元気になり、交流人口も増え街全体が元気になると思う。
- ・高齢化率が平均と比べて高めの小矢部市が、見習うことが多々あったような気がする。

(8) その他（全体を振り返って等）

宮田座長

今回、能登地方のまちづくりの盛んなポイントをいくつか回ったが、全体的に見ると、世界農業遺産に認定されていることが大きくこの地方に影響を及ぼし、盛んに行われる様々な事業展開を後押しし、観光客を呼び込んでいる要因になっているように思えた。今後も、うまくこの地域全体でこの波に乗り、まちづくりが盛んに行われていく勢いを感じた。

これらのことを小矢部にそのまま当てはめ、参考にするのは難しいことだが、基本的には今あるモノや今の勢いに乗るのが一番の近道であり、新しいことを始めるのは、その次のステップであるように感じた。

鏡副座長

- ・普段ではあじわえない貴重な体験ができた。
- ・この体験を活かし、まちづくり研究に取り組んでいきたいと思う。



吉田書記

先進地視察は非常に参考になった。白米千枚田のライトアップが特に印象に残っている。小矢部市に今ある資源をうまく使い、手を加えることで観光化することに興味がわいてきた。ただし、具体的にどうすればよいのかについては、まだ良い案が浮かばない。

前委員が取り組んでいた『『食』について』が、継続性という点で効果があり、具体的に言うことを考えやすいという点でも、よいテーマなのではないかと思った。先進地視察で昼食に能登丼を食べたが、あまりピンとはこなかった。能登産の器と箸を使用しているそうだが、あれでは能登丼について調べてこないと何か分からず、普通の天井である。しかし、能登丼のように小矢部市全体の飲食店で行える、ホワイトラーメンに次ぐ何かが生み出せたらよいなと思った。そこで、第3期生1班の研究を受け継ぎ、商品開発と宣伝に力を入れたら効果があるのではないかと考える。

高橋委員

視察先は課題があるところもあり、今後の研究の参考になった。見て聞かないと分からないことが多いので、良い視察研修であった。

矢竹委員

- ・ 1日目の昼に能登丼を食べた。奥能登（2市2町）での取組であり、丼の定義からみても自由度が高くて多種多様という感じがした。違う種類のものも食べてみたい。
- ・ 器、箸も能登産のものを使い、箸を持ち帰ることができるのは旅？の印象に残る。
- ・ 今回、視察で話を聞けた方からは、行政、民間の方を問わず、能登の一体感みたいなものを感じた。「地形のせいもあるのかもしれないが、決して狭い地域ではないにもかかわらず、『能登でひとつ』という印象を受けた。」と言い切るのは、ちょっとオーバーですね。

福永委員

2日間で7か所も回ることができ、とても意義のある視察でした。委員同士の親睦も深まったと思います。いろいろと視察した中で感じたことは、自治体も民間、地域住民の方も、地域の発展のために非常に意欲的・自主的に取り組まれているということです。

これからまちづくり研究会で活動していく中でも、行政・住民双方向で取り組める形を模索できたらと思います。

藤澤委員

- ・ 石川県の能登地方への視察であり、いわば「ご近所さん」と思っていたが、その土地土地の特色を生かしたオリジナリティのある政策があるのだと感じた。それを全く知らなかった自分の知識の浅さを、また改めて痛感させられた。
- ・ 現在、研究テーマは未確定であるが、今回の研修で面白いと思った市や団体の取組に、制度や補助金等があった。せつかく2年間まちづくりについて研究するのであれば、何か制度や補助金などの（後々形に残る）ものを作ってはどうか。



資料 2

日置市職員まちづくり研究会研修 協議内容

1. 日 時

平成 25 年 11 月 6 日（水）14 時 21 分～16 時 13 分

2. 場 所

小矢部市役所 3 階 第 2 委員会室

3. 出 席 者

日 置 市	松元委員、松木委員、西園委員、企画課 地頭所 氏
小 矢 部 市	宮田座長、鏡副座長、吉田書記、矢竹委員、福永委員、藤澤委員、 総務課 村西主事、市民協働課 居島課長、長太

4. 協議内容

(1) 小矢部市まちづくり研究会について

(2) 日置市まちづくり研究会からの質問について

「小矢部市まちづくり研究会について」と「日置市職員まちづくり研究会」の資料に沿って説明後、質疑応答を実施。



《日置市から小矢部市への質問》

- ・ 4期生研究テーマは4つ出たが、7名で4つのテーマをどう振り分けているのか。
→7名全員で4つのテーマを持っている、と考えている。
- ・ 非常に負担ではないか。
→発表は1人に2つずつくらい担当することになると思うが、なんとかやっている。
- ・ 月に1回の会議で、7人がそれぞれのテーマについて考えておられるのはすごい。私たちは、1つのテーマでも負担と考えている。
→浅いのかもかもしれない。
- ・ facebookについて、他の議員の反対はなかったか。職員の反応はどうだったか。職員に、説明会はしなかったのか。
→反対はなかった。職員の反応は分からない。基本的に投稿ボタンを押すだけなので、わざわざ全員集める必要があるだろうかということで行わなかった。
- ・ 委員をやっていて、市民の方と行政の方のギャップはないか。市民は「したい」が、職員は「できない」とかいったことはないか。
→ギャップを感じたことはない。小さいところはあるかもしれない。
→民間の方がヒントを出して、職員がまとめるというのが今までのやり方だったが、今回は違うと思う。職員だけで構成する「よりよい小矢部研究会」はあったが、提案を出しても、通りにくいことがあった。現在は、新しい意見が出るかもしれないので、現在は期待されている。
- ・ 初めから、市民を混ぜて構成しようという雰囲気だったか。
→当時のことはよく分からないが、民間の方がいると取り上げられやすいということで、初めから市民と一緒にやることを考えていたと思う。
- ・ 報告会には、一般市民の方は来られるのか。
→基本的には、市長、部長、課長、委員と報道関係者である。
- ・ 私たちの場合は、体育館のようなところで一般市民の方も招いて150人程度の前で発表を行っている。
- ・ いろんな導入されたものについて、継続はされているのか。
→市の事業として取り入れられているものもある。
- ・ 写真コンテストはどんなものか。
→気軽に投稿してもらう事で日常的な小矢部の風景を外部に発信する。映画、テレビのロケ地として使ってもらおうと思っている。
- ・ 南島原市は「いいね」が多いのでやろうと思ったが、30万円の賞金などがネックとなり、やめた。

《小矢部市から日置市への質問》

- ・ facebook の閲覧件数は何件くらいか（小矢部市：239 件）。
→132 件である。
- ・ facebook で紹介しているイベントに、まち研として携わっていることはあるか。
→婚活イベントを10月にやった。NPOの企画の手伝い。1月にもう一度やる。
facebook を宣伝媒体に使って、駅にポスターを貼る。美山かまもとまつりに
ついても、宣伝をしていた。
- ・ 職員で検討する理由は。
→近隣にもなかったため、職員だけが通常だと思っていた。
→「日置市の共生協働をかたる会」はあるが、市民だけの組織である。
- ・ 職員だけというなら、勤務として行っているのか。
→勤務時間内でもいいが、集まりが悪い。ボランティアである。
- ・ まち研の認知度はどの程度か。職務内部や市民の間において。
→どちらも高くないような気がする。とても楽しいコメントがあったので、情
報発信としてはいいと思った。まち研だからこそできる投稿の仕方かと思う。
→情報だけになってしまっていたので、「オリリン」等、身近にとらえていた
だけのように自分たちの顔や名前を出した。
- ・ 視察は、他の班はどうされているか。
→まち歩き班は、熊本など。もう一つは、佐賀、大分。
- ・ 過去の班編成はどうだったか。
→1期生は、行財政などで2班。2期生は、3班から2班。定住促進、地域コ
ミュニティ、歴史文化、日置市周遊プランを策定、高校生と協働で料理グラ
ンプリ、やねだんの視察。市のキャッチコピーを考え、17に絞り込んだ。
結局、「あなたの力を貸してください」に決定した。3期生は、定住促進、
温泉地（2か所）を活かしたまちづくり。武雄市の事例を紹介して、日置市
でもしてみないかと提案。4期生は、3班体制である。
- ・ 継続させたいという思いがある。せっかくやっているものを活かしたい。
- ・ 更新のペースがすごく速いが。
→最初は2週間に1回だったが、始めてみると、更新が遅いという意見をいた
だいたので、ツールの効果を出すためにも速くするようにしている。
- ・ 委員の再任はないか。
→基本的にはない。3、4期になると若手が多い。
- ・ facebook に、動画を撮ってネットに載せることは可能か。
→動画をとっているが、載せていない。

平成 26 年 3 月 発行

お問い合わせ先

932-8611 富山県小矢部市本町1番1号

小矢部市民生部市民協働課(小矢部市まちづくり研究会事務局)

電話 0766-67-1760 FAX 0766-67-5520